



～ 2022年度 青森大学活動報告誌 ～

青森大学の窓



キャンパスに作られたフクロウのチェーンソーアート

目次

はじめに	1
トピックス	2
総合経営学部	2
社会学部	2
ソフトウェア情報学部	3
薬学部	3
総合経営学部	4
東京キャンパス	4
むつキャンパス	4
部活動	4
各学部の活動	6
総合経営学部	6
社会学部	12
ソフトウェア情報学部	18
薬学部	36
各部局の活動	50
青森大学 FD・SD 委員会	50
情報化推進センター	50
図書委員会（附属図書館）	50
国際交流センター	51
日本語教育センター	52
青森ねぶた健康研究所	53
青森大学オープンカレッジ	54
青森大学 脳と健康科学研究センター	55
学生課	57
各部活、クラブの主な記録	58
新体操部	58
硬式野球部	59
クラブの主な記録	59
資料編	61
青森大学組織図	61
在籍者数（2022年5月1日現在）	61
就職状況	62
財務情報（事業活動収支計算書）	63
青森大学ルネッサンス基金のご案内	64



青森大学マスコットキャラクター
「あおりん」

学 長 濫谷 泰秀



「青森大学の窓(2022年度)」の発刊にあたりご挨拶申し上げます。青森大学の窓は、日頃よりご支援いただいている学外の皆様に感謝の意を込めて青森大学の教育・研究・社会貢献活動などの成果をご報告する趣旨で発行しております。地元の自治体、商工会議所、各種団体、病院、薬局、学校、企業などのご協力なしでは十分な教育成果をあげることは困難であったと考えております。これまでのご支援に感謝し、地元(青森、むつ、東京)との親密な連携の中で教育された多くの学生が地元就職し生計をたて、地元を活性化していくことで青森大学の使命・目的を果たしていきたいと考えております。また、薬学部の教育においては、青森県薬剤師会をはじめ多くの関連諸団体の先生方に格段のご配慮を頂き、実習生の指導はもちろん、指導薬剤師の先生方とのワークショップなど、教育の根幹に係るご協力を頂いております。青森大学としてお礼を申し上げると共に多くの薬剤師を輩出することでご支援にお答えしていく所存でございます。更に、ソフトウェア情報学部は青森地域唯一のIT系学部としての役割を果たすため、今後は今まで以上にITの専門性の視点から地元との連携を進めていきます。

皆様のご支援を受け、2018年度に開設した東京キャンパスは、2022年度に初めての卒業生を輩出しました。ここ4年間は、新型コロナウイルス感染で教育を受ける学生も、教育を実施する大学も大きな試練を乗り越えての完成年度となりました。特に東京キャンパスは、感染者数が多く、遠隔授業を多用するなどの対応を行いました。東京キャンパスの開設に先立ち、遠隔授業を用いた授業の準備を進めていたこともあり、他の大学と比較するとスムーズに遠隔授業対応ができました。東京キャンパス開設後も継続的に改善を行い、現在ではむつキャンパスを含め多くの授業で遠隔授業を導入しており、青森大学の特徴の一つとなっています。

青森大学は、地域とともに生きる大学及び学生中心の大学を二本柱として、地元の多くの高等学校との包括的な連携協定を起点として、高等学校に教員を派遣するなど、高等学校との協働を進めてきました。青森大学の窓の中にも高大連携の成果が載っておりますが、これから更に高大接続に向けて大学が率先して高校との協働を進めていきます。本稿で記載できなかった多くの皆様にも多大なご支援を賜りましたことにお礼を申し上げます。本誌を通じて皆様方からのご支援の成果を少しでもお伝えできれば幸いです。

トピックス

総合経営学部

【「青森発！ビジネスプランコンテスト 2022」でグランプリを獲得】

「青森発！台湾との連携によるビジネスプランコンテスト」は、青森県商工労働部新産業創造課が主催する大学生を対象とした青森と台湾の双方の強みを組み合わせた新商品の開発を内容としたビジネスプランを募集し、優れたプランについて表彰を行うコンテストで、青森大学総合経営学部1年生の崔ゼミが、グランプリを受賞しました。

「青森発！台湾との連携によるビジネスプランコンテスト」は、青森県商工労働部新産業創造課が主催する若者の新たな発想によるビジネスの創出と、将来的に台湾とのビジネス交流にチャレンジする人財の育成を目的として、大学生を対象とする青森と台湾の双方の強みを組み合わせた新商品の開発を内容としたビジネスプランを募集し、優れたプランについて表彰を行うコンテストです。2022年度には、県内5つの大学から9つのプランの応募があり、専門家からの御意見等を参考に第一次選考で5つのプランを選定し、各チームからのプレゼンテーションによる最終選考が行われました。青森大学総合経営学部1年生の崔ゼミは、チーム名「青台BOOM（あおだいぶーむ）」で参加しました。台湾で一般的に食されているパン「炸彈麵包（爆弾パン）」を青森産のリンゴなどを組み合わせて、新たなスイーツとして

青森と台湾で販売するプランを発表しグランプリを受賞しました。



社会学部

【岩手県釜石市で地域復興を学ぶために合宿を実施】

岩手県釜石市で東日本大震災からの地域復興や街づくりへの学びを深めるとともに、昨年度お世話になった釜石市の皆さんと元気に再会することを目的に実施しました。

2022年6月17日（金）から2泊3日の日程で、岩手県釜石市で地域復興を学ぶために石井ゼミが合宿に訪れました。釜石市での合宿は2回目です。東日本大震災からの地域復興や街づくりへの学びを深めるとともに、昨年度お世話になった釜石市の皆さんと元気に再会することを目的に実施しました。磯焼けウニ対策養殖事業やワーケーション施設の見学、ワーケーション（普通の職場と異なるリゾート地や観光地で働きながら休暇を取る）に関する最新事例のリサーチを行い青森市とのワーケーション事業の着想を得て、釜石リージョナルコーディネーター協議会や釜石市野田武則市長を表敬訪問し、釜石市役所オープンシティ推進室等で復興の進捗状況や未来を見据えた街づくりに比重が高まってきていることを確認しました。ゼミ生た



ちは、「自分たちが暮らす街や日本の問題を真正面から受け止め、苦勞をしながらも前進を繰り返す釜石市の人たちが眩しかった。もっと勉強して、来年も釜石市を訪れたいです。」と語りました。

ソフトウェア情報学部

【東北 TECH 道場 10 周年記念イベントで Google オフィスを訪問】

ソフトウェア情報学部は、Google 社による支援のもと、東日本大震災からの復興と技術者育成に取り組む「東北 TECH 道場」の青森道場を 2016 年から主催し、地域の高校生・大学生・社会人による情報人材育成に取り組んでいます。

2022 年 11 月 16 日（水）、東北 TECH 道場の 10 周年を記念するイベントが Google 社の日本オフィスで開催され、東北各地の道場から道場生や道場主が参加して活動報告や道場で開発中のアプリ紹介などを行いました。東北 TECH 道場で CS50@ 青森道場チームとして活動しているソフトウェア情報学部 1 年生 6 名が参加、ハーバード大学が提供するオンラインのコンピュータサイエンスコース（CS50）をベースに学習している勉強会の様子や、英語学習のための Web アプリ開発の目標について紹介しました。

懇親会に続けて実施された Google 社内のオフィス・ツアーでは、ラウンジやスポーツジム、ゲームスペースなど、快適で遊び心も満載のオフィス空間を見学することができました。



薬学部

【青森県の地域素材を用いた開発教材の試験運用】

青森大学薬学部は、青森県の特徴ある素材を利用し、SDGs（「Sustainable Development Goals」の略称で 2015 年 9 月国連にて採択された持続可能な開発目標）に基づく理科教材の開発を行っています。（SDGs - 3, 4, 9, 11, 12, 15）

2022 年 11 月 26 日（土）青森県の地域素材を用いた開発教材の試験運用を行いました。

高大連携の取組を通じて、薬学生 3 名と薬学部卒業生 1 名の協力の元、青森明の星中学・高等学校の依頼を受けて高校生 6 名と中学生 2 名を対象に実施したものです。

参加した生徒は、とても楽しそうに体験してくれていました。

この取り組みは、「青森県 R4 年度大学による SDGs の考え方等を取り入れた環境人材育成事業」の助成で実施いたしました。



東京キャンパス

【2年生必修授業で、荒川河川敷のゴミ拾いを実施】

東京キャンパスでは、2年生必修授業「地域貢献演習」において、環境活動家のゲストによる講義を行い、毎月1回街や川のゴミ拾いを行っております。

2022年12月6日(火)2年生の授業で、荒川河川敷のゴミ拾いを実施しました。東京キャンパスの周辺を一人のゴミ拾いから始め、二人で自らの居住地周辺、そしてグループで小春日和の荒川河川敷のゴミ拾いを行いました。

荒川から気持ちの良い風と、河川管理パトロールの皆さんからの激励でより一層頑張れました。

今後も地域の役に立つ活動をしていきます。



むつキャンパス

【宮下特別招聘教授の特別講義】

青森大学では、さまざまな分野の専門家をゲストにお呼びし特別講義を行っています。その中でむつキャンパスでは、むつ市長の特別講義を行いました。

2022年6月13日(月)、むつ市長(当時 現青森県知事)宮下宗一郎特別招聘教授の特別講義が行われました。宮下特別招聘教授は冒頭、本を読み自分の頭で考えて行動することの大切さを、自らのコロナウイルス関係の読書を紹介して分かりやすく説かれました。テーマの「むつ市のまちづくり」についてはワークショップ形式で行われ、途中アイスブレイクも交え楽しい雰囲気の中で地元就職先、特産品販路開拓、暮らしやすいまちといったグループ別の発表を指導していただきました。

終わりには、YouTube「むつ市長の62ちゃんねる」を紹介していただきながら、方程式の成り立たないような現代社会では若いみなさんの自由な発想が大切、と期待を述べられました。



部活動

【名原典彦選手 広島東洋カープ育成1位指名】

プロ野球ドラフト会議で、名原典彦選手が広島東洋カープから育成1位指名を受けました。

2022年10月20日(木)に行われたプロ野球ドラフト会議で、青森大学総合経営学部で硬式野球部に所属する名原典彦選手が広島東洋カープから育成1位指名を受けました。

名原選手は、「4年前に広島から青森に来て、4年間を過ごせたことは貴重な経験だった。地元の球団である広島東洋カープの一員として一日でも早く戦えるように頑張っていく。」とコメントしました。



【3年ぶりに開催された青森ねぶた祭に出陣】

2022年8月2日（火）から7日（日）に、青森ねぶた祭が3年ぶりに開催されました。青森山田学園系列である青森大学も運行団体として青森ねぶた祭に出陣、祭りを盛り上げました。

新型コロナウイルス感染症が流行して以降2年連続で中止していましたが、2022年は感染予防対策を万全に青森ねぶた祭が実施されました。青森山田学園系列である青森大学も運行団体として参加、大型ねぶたは「三内丸山縄文の祈り」制作は北村隆さん（第6代ねぶた名人）です。ねぶたの題材は2021年世界文化遺産となりました「北海道・北東北の縄文遺跡群」野生動物と大自然の中に暮らしていた縄文人に夢を馳せた大型ねぶたです。感染予防対策を万全に跳人、囃子、ねぶたの曳き手に関連機関の園児や生徒、学生が参加しました。笛や太鼓の音色に合わせて、トンだりハネたり青森のじゃわめき（津軽弁 いてもたってもいられないような高揚感）は最高潮に達しました。



各学部の主な活動

総合経営学部



「2022年を振り返って」

総合経営学部長 佐々木 豊志

2021年度から引き続き、2022年度も2018年に就任された金井前学長が掲げる「青森大学改革ビジョン2018」をもとに進めました。この中で強調していることが「尖った大学」、それは、他大学の経営学部や商学部にはない特徴を打ち出すことを目指すことでした。

地域とともにある青森大学の2022年度のトピックスに、沼田ゼミの活動を上げられます。学生が、地域の企業と連携をして、青森大学ラベルの清酒の製造・販売に取り組み、酒米の田植え・稲刈りをし、酒造会社で酒造りの仕込み体験をして、販売する酒のラベルの制作まで一貫して取り組んで多くを学びました。もう一つは、佐々木ゼミが「青森市学生ビジネスアイデアコンテスト」でグランプリを受賞しました。これは、青森山田学園が所有して、近年使用せずに放置していた温泉、「新湯」を再生して活用をするアイデアです。学生が実際に八甲田山中でゼミ合宿を行い再生のための作業に汗を流しました。水道の修復作業にあたっては、日本技術士会青森支部の方々の多大なる協力をいただきました。のちに学生が作成した報告書の中に、学生にとっても専門性が高い技術士の方々と作業することが大きな学びになったことが読み取れます。このように学生が学ぶ場が地域にあり、学生が地域とともに成長するという、他大学との違いを示すことができた成果です。

学部全体としては、これまで設定していた3つのコースのブラッシュアップすること、そして2022年度新設した「フィールドツーリズムコース」を合わせて、4つのコースを充実させることを目指しました。4つ目のコースとして「フィールドツーリズムコース」を新設したことが、今年度の変化であり、国が進める観光産業が重要な成長産業と位置付けている潮流をしっかりと捉えて、青森の地域資源である自然・歴史・文化を活かした持続可能な観光産業を担う人材育成に一步踏み出した年と言えます。学びの場を実際のフィールドとし、特に体験型観光事業者のマネジメントや自然体験型観光商品のプログラムを学ぶことができるカリキュラムも設定しました。これからもさらに地域に根差して、他のコースも含めて新たな授業を展開します。

【2022年度 学生研究発表大会】

2023年1月、2022年度総合経営学部学生研究発表大会が3年ぶりに記念ホールで行われました。本年度は東京キャンパスとオンラインでつなぎ、留学生が2名代表として報告するなど、総合経営学部にもふさわしい多岐にわたるテーマが取り上げられました。10分という決められた時間内での発表では伝えきれないほどの研究成果が数多くあり、4年間の集大成にふさわしい大会となりました。質疑応答では活発な討論が行われ、総合経営学部教員による厳正な審査により各賞の選考も行われました。

発表

生涯スポーツのすすめ

青森大学の人材育成からみる大学経営について

持続可能なまちづくりに関する考察 — 青森市の事例を中心に —

スポーツマーケティングに関する一考察

～山形県における硬式テニスの競技人口を中心として～

アパレル業界の経営戦略 — 「しまむら」に焦点を当てて —

地方銀行の再編：みちのく銀行と青森銀行の合併の展開

公的統計調査にみるひとり親世帯の実態と課題

ネット販売時代における中国の小売業の現状と変革に関する研究

破壊的イノベーションについて

【令和4年度青森市 学生ビジネスアイデアコンテスト優勝】

2022年11月27日(日)、「青森市学生ビジネスアイデアコンテスト」で青森大学の3年佐々木ゼミチームが優勝しました。

テーマ：八甲田新湯再生プロジェクト



【「ビジネスプランコンテスト」最優秀賞受賞】

「青森発！台湾との連携によるビジネスプランコンテスト」は、青森県商工労働部新産業創造課が主催する大学生を対象とした青森と台湾の双方の強みを組み合わせた新商品の開発を内容としたビジネスプランを募集し、優れたプランについて表彰を行うコンテストで、台湾でポピュラーなパン「炸彈麵包(爆弾パン)」を青森産のリンゴなどを組み合わせて、新たなスイーツとして青森と台湾で販売するプランを発表し「青森大学総合経営学部1年生の崔ゼミが、最優秀賞を受賞しました。本プランは、2023年度に商品化することが決定しております。



【「純米吟醸 青森大学」誕生！】

総合経営学部の沼田ゼミ(3年)では、白神酒造(株)様、リカーショップ高橋様のご協力を得て、2022年 青森大学 学生活動支援制度～あおりんプロジェクト～において採択事業として大学ブランドの日本酒「純米吟醸青森大学」をつくり販売いたしました。学生は、酒米の田植え、稲刈り、仕込みまでを体験し、ラベルの作成も行いました。

2月から販売を開始し、1カ月ほどで今年度分を完売いたしました。2年目の「純米吟醸 青森大学」もご期待ください。



【合同ゼミの実施】

2022年9月12日(月)および26日(月)、総合経営学部松本ゼミと新潟大学創生学部のゼミと合同で3年ゼミをZoom上で実施しました。3年ゼミで実施した理由は、コロナ禍での大学生活を余儀なくされ、他大学の学生との交流を経験していない学生がほとんどであったためです。

合同ゼミには青森大学松本3年ゼミ9名、新潟大学3年ゼミ11名の計20名の学生が参加し、青森大学・新潟大学の混合グループになるよう4グループに分けてグループワークを実施しました。

グループワークの課題は「青森・新潟地域における課題解決のための新しい広域連携(遠隔型連携)アイデアの提案」とし、1日目終了時に進捗状況報告を、2日目終了時に最終報告を行いました。

各学部の主な活動

参加した学生の合同ゼミに対する反応は、グループワークの反省点はあっても合同ゼミの実施自体に対してネガティブな意見はなく、どちらの大学の学生も他大学の学生とのグループワークから達成感や刺激を得たようです。

*本合同ゼミの詳細については、拙稿「地域課題の解決を主導するリーダー育成教育に関する研究（スタディグループ最終報告）」として地域経営学会学会誌に掲載されており、同学会ホームページ上で閲覧可能です。

【チェーンソーアートが青森キャンパスに登場】

2022年1月から青い森カービングクラブの力をお借りして総合経営学部の佐々木先生のゼミと青森大学が共同でチェーンソーアートプロジェクトを開始しました。

青森キャンパスでは、施設設備の一環として木の伐採を定期的に行っています。伐採した木の切り株の活用として2022年3月に第1期のチェーンソーアートを行いました。参加した学生はチェーンソーの扱い方はもちろん、作品のテーマづくりのほか、温暖化にまつわる森の変化や害虫被害についても指導を頂きました。



【個人業績】

■佐々木豊志

- 2022年4月15日 観光庁「サステイナブル観光コンテンツ・有識者会議」（オンライン）
- 16日 ATV取材「ツーリズム関連」
- 5月10日 みちのくトレイルセンター運営会議（名取市）
- 17日 五所川原高校 高大連携協定調印式（五所川原高校）
- 20日 観光庁「サステイナブル観光コンテンツ・有識者会議」（東京・霞ヶ関）
- 30～31日 西北県民局事業調査「アウトドアコンテンツ調査」
- 6月1日 新湯再生プロジェクト 下見調査（八甲田山：新湯）
- 3～4日 みちのく潮風トレイル業務・理事会（名取市）
- 10日 オープンカレッジ（アウガ5階）
- 21日 西北県民局調査「アウトドアコンテンツ調査」
- 30日 西北県民局調査「アウトドアコンテンツ調査」
- 7月4日 八甲田振興協議会総会（ホテル青森）
- 20日 呉竹幼稚園「1日森のようちえん」（市内沢山・青森山田学園所有林）
- 23日 環境省気候変動シンポジウム（アスパム5階）
- 25～27日 西北県民局事業「キャンプクラフト教室」（つがる市：つがる地球村）
- 29日 観光庁「サステイナブル観光コンテンツ・有識者会議」（オンライン）
- 8月25日 青森山田スポーツアカデミー指導（青森山田中学体育館）
- 30～9月1日 新湯再生プロジェクトゼミ合宿
- 19日 忍者ツアー（観光文化研究センター主催）
- 21日 八甲田樹氷国際ブランド化推進会議（ホテル青森）
- 10月16日「屋久島・白神シンポジウム」（鯨ヶ沢町・熊の湯）
- 20日 西北県民局事業「縄文モニターキャンプ」（五所川原市・かなぎ元気村）
- 27日 観光庁「サステイナブル観光コンテンツ・有識者会議」（オンライン）

- 31日 中国自然教育ネットワーク会議（オンライン収録）
- 11月3日 青森山田スポーツアカデミー「火起こし」指導（青森大学中庭）
- 11日 観光庁「サステナブル観光コンテンツ・有識者会議」（オンライン）
- 12日 スタディツアー「津軽～太宰を体験～」（1年ゼミ）
- 22～23日 西北県民局調査「アウトドアコンテンツ調査」
- 24～25日 環境省「みちのく潮風トレイル維持管理会議」（名取市）
- 27日 青森市学生ビジネスアイデアコンテスト（3年ゼミグランプリ受賞）
- 29日 環境省事業「自然体験活動促進計画策定準備会議」（アスパム）
- 12月2日「SDGsと林業」青い森林業アカデミー講座（青森大学）
- 2～3日 みちのく潮風トレイル：（名取市山田市長帯同）
- 9日 観光庁「サステナブル観光コンテンツ・有識者会議」（東京・霞ヶ関）
- 11日 青森市環境フェア（ワ・ラッセ）
- 12日 高大連携推進会議（アラスカ）
- 14日 アジア kids AU 運営会議（オンライン）
- 23日「SDGs 概論と持続可能な町づくり」（六戸町）
- 25～27日 イグルマイスター講座（酸ヶ湯温泉）
- 2023年1月9日 青森山田スポーツアカデミー「雪板づくり&体験」
- 12日 イグルーづくり指導（大鰐町・ワイナリーホテル）
- 16～20日「地球村イグルー村建設」（つがる市：つがる地球村）
- 26～27日 イグルーづくり講習会（十和田湖生み出キャンプ場）
- 2月4日 世界イグルー選手権（モヤヒルズ）
- 11～12日 イグルー授業指導（ハロウィンターナショナルスクール安比校）
- 16日 新潟プロジェクト厳冬期踏査（八甲田山・新潟）
- 18～19日 イグルー制作（白神ビクターセンター）
- 3月1日 観光庁「サステナブル観光コンテンツ・有識者会議」（オンライン）
- 30日 東奥日報取材「八甲田風力発電開発について」

■関 智子

○授業関連

- ・ 専門演習 3年生において、国立公園内（神奈川県）でフィールドワークを導入。（2022年12月、神奈川県）
- ・ 専門演習 4年生において、国立公園内（栃木県）でフィールドワークを導入。（2023年2月、栃木県）
- ・ 「技能コア特講Ⅰ（環境共生論）」において1年生の宿泊型の学外授業の導入。（5月21日～22日1泊2日、渋谷区）

その他、担当科目において、自然観察系、文化体験系フィールドワークの導入

○研究関連

<調査報告>

- ・ 青少年教育振興機構（関智子責任編集・杉山かな子）（2023）「青少年教育振興機構におけるオンライン教育事業及び指導者養成事業の展開に向けた先行事例調査：アメリカにおける自然体験指導者育成のためのオンライン研修に着目して 調査報告書」、国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター、pp.34.

<報告>

- ・ 関 智子（2023）「環境倫理の父、アルド・レオポルドの教育法」『青森大学紀要』24巻2号、pp.28-34.

<助成金>

- 第9回教育研究プロジェクト「アメリカ環境思想の史的文献研究—「ウィルダネスとアメリカ人」の観点より」（3年計画2年目）

各学部の主な活動

<研究会運営>

- ・2022年度青森大学比較環境思想研究会（第1回～5回）
（2022年9月30日）尾崎和彦氏（明治大学名誉教授）「ディープ・エコロジーの北欧神話的背景—『巫女の予言』か『高き者の言葉』か」
（2022年10月21日）加藤尚武氏（京都大学名誉教授）「自然の歴史と人間の本性—科学的見方の集約」
（2022年11月25日）羽田正氏（東京大学東京カレッジ長）「新しい世界史へ」
（2022年12月6日）尾崎和彦氏（明治大学名誉教授）「ノルウェーのディープエコロジー思想」※第1回研究会続編
（2023年1月27日）大竹英洋氏（写真家）「ウィルダネス：北アメリカ・ノースウッズでの20年」

○社会活動関連

- ・東京東信用金庫主催「商店街×学生ドリームプランコンテスト」審査員（2023年3月4日）

■飛鳥 由美子

【論文等】

- ・論文

2月「求められる租税教育—個人課税を中心に—」『研究紀要』青森大学, 第44巻3号第45巻1・2・3合併号, pp1-22。

- ・研究ノート

2月「納税者意識の形成プロセスと租税知識」『研究紀要』青森大学, 第44巻3号第45巻1・2・3合併号, pp143-165。

【学会報告】

10月「税務コンプライアンスに影響を与える諸要因—個人課税を中心に—」日本財務管理学会, 第55回秋季全国大会

【教育・地域貢献活動】

5月「納税者意識と租税知識—確定申告を中心に—」青森大学総合研究所, CAFE 総研報告

【学外委員】

青森地方最低賃金審議会委員

■松本大吾

○出張講義

依頼元：五所川原商業高校

実施日：2022年6月22日（水）

テーマ：課題研究への助言

○大学見学会

依頼元：大間中学校

実施日9月2日（金）

授業タイトル：「会計学」ってどんなことを学ぶの？

○オープンキャンパス（むつキャンパス）

実施日：11月3日（木）

授業タイトル：会計について学んでみよう

実施日：3月21日（火）

授業タイトル：会計学は何を学んで何に役に立つの？

○競争的資金の獲得（2022年度の金額）

研究代表者分：地域経営学会スタディグループ、採択課題「地域課題の解決を主導するリーダー育成教育に関する研究」研究期間 2021～2022 年度、¥20,000。

○学会報告

松本大吾・堀籠崇「地域課題の解決を主導するリーダー育成教育に関する研究（スタディグループ中間報告）」第 42 回地域経営学会研究会（於：大正大学地域構想研究所）11 月 20 日（日）。

松本大吾「地域課題の解決を主導するリーダー育成教育に関する研究（スタディグループ最終報告）」第 1 回地域経営研究会・第 43 回地域経営学会合同研究会（於：札幌学院大学）3 月 11 日（土）。

○学会等への参加

全国ビジネス系大学教育会議 39 回全国研究会議に Zoom 参加, 9 月 19 日（月）。

■白岩 貢

○2022 年 6 月 23 日（木） 青森市東部市民センター

出張講義「童謡・唱歌のルーツをたどる」

○2022 年 7 月 8 日（金） 青森市沖館市民センター

出張講義「童謡・唱歌のルーツをたどる」

○2022 年 7 月 16 日（土） 青森県立保健大学講堂

ウクライナ支援コンサート「祖国に帰りたい」演奏会実行委員

○2022 年 10 月 9 日（日） 青森公立大学国際交流ハウス

演奏会 ドイツリート of 愉しみ I 「シューマンの世界」

○2022 年 11 月 26 日（土） 青森公立大学国際交流ハウス

演奏会 白岩貢&長谷智子リートデュオリサイタル「シューベルト・美しき水車屋の娘」

○2022 年 12 月 11 日（日） 青森市文化会館（リンクステーションホール青森）

青森第九の会 「第 41 回青森第九の会演奏会」合唱指導

地域貢献演習履修者 17 名が合唱団員として一般市民とともに演奏した。

○2022 年 12 月 13 日（火） 青森市民ホール（リンクモア平安閣市民ホール）

青森山田高校サッカー部監督・黒田剛氏講演会 閉会式歌唱

○2023 年 1 月 14 日（土） デーリー東北新聞社デーリーホール（八戸）

演奏会 「吉田信子・白岩貢&友田恭子リートリサイタル」

社会学部

「2022年を振り返って」

社会学部長 清川 繁人



青森大学社会学部は、新型コロナウイルス感染症の影響によりフィールドワークが制限を受けた状況においても、「地域とともに生きる大学」の理念を具現化するために創意工夫を凝らし、また学生の自主性を重んじた活動を展開しました。

コミュニティ創生コースでは、2019年度に観光経営や地域への貢献に焦点を当てた3つのプログラムの履修者が初めて卒業を迎えました。「観光プログラム」では、観光のあり方について学びながら、地域における観光の重要性を理解し、「地域政策プログラム」では、公務員や農協、商工会などを目指す学生が基本知識と実践力を身につけ、地域への貢献を考えました。また、「社会調査プログラム」では社会課題を明らかにし、解決に向けた方法を学びました。これらのプログラムを履修した学生たちは、地域課題解決に貢献する知識とスキルを身につけ、進路決定においても積極的な活動を行いました。

社会福祉コースでは、社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験の合格者数を増やすために特別講座を新設しました。この取り組みにより、国家試験の合格率が向上し受験を数年後に控えた学生たちの向学心も高まったとの報告が寄せられています。

2022年は、青森県むつ市に新たなむつキャンパスが開設され、これにより青森大学は3キャンパス体制となりました。むつキャンパスは、むつ下北地域の様々な課題に対処できる人材を育成することを目的としており、社会学部はその役割に期待されています。

【青森山田高校キャリアアップコースと社会学部との連携授業】

山田高校キャリアアップコース（1年生）と社会学部との連携授業を5回にわたり実施し、全体報告会を2022年7月14日（木）、青森大学記念ホールで行いました。同連携授業は2022年4月21日（木）から合計5回（含・全体講話）開催しました。

同コース1年生の生徒さんは、この5回で体験したこと・学んだことを、模造紙に整理をして報告しました。体験や学びに基づき、自分たちの未来につながる意見や提案をしている様子から、学びの深さや、学ぶことの楽しさを感じていました。



【幸畑ヒルズねぶた祭の制作小屋を設置】

社会学部が開講している「社会調査実習」では、毎年、幸畑団地地区を対象に調査活動を実施しています。2022年は「幸畑ヒルズねぶた祭2022」への参加をテーマの一つとし、3年ぶりに開催される「幸畑ヒルズねぶた祭2022」に出陣するねぶたの制作小屋を設置しました。祭り本番は2022年8月20日（土）に実施され、ねぶたの運行を待ちわびた地域住民と本学とのきずなが一層深まりました。



【鈴木ゼミが自立訓練事業所と「夏のドローン体験イベント」を開催】

鈴木ゼミ（社会学専門演習Ⅰ・Ⅱ、社会学専門演習Ⅲ・Ⅳ）は、多様な「学び」を展開している自立訓練（生活訓練）事業所「BaDeYa（バーディヤ）」と共催し、青森市浪岡で「夏のドローン体験イベント」を開催しました。この企画は、青森市のドローンスクールから、「障がい者がドローンで仕事ができる時代が来る」、というお話を伺い、イベントを企画しました。当日は、地域の方々とともに、障がい者の就労とドローンとの新しい可能性を語り合いました。

【「精神保健福祉援助実習」報告会を開催】

2023年2月10日（金）、同報告会を開催しました。精神保健福祉援助実習は社会福祉コースの選択科目で、「精神保健福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な科目です。実習生たちは、実習を通して感じた各自の葛藤や気づき、今後の課題などをまとめ、発表することができました。また、各施設の実習指導者様からは、貴重なご感想やご助言、励ましの言葉をいただきました。



【大学祭への参加】

社会学部の1～4年次におけるゼミ活動について、2022年10月1日（土）～2日（日）に開催された大学祭で出展し、教育の一端を紹介しました。展示に参加したのは以下の通りです。七和薪循環プロジェクト（柏谷ゼミ）、津軽線プロジェクト・幸畑プロジェクト他（櫛引ゼミ）、青森県ゆかりの文豪調査（飛内ゼミ）、縄文土偶試作（清川ゼミ）。



【入学前教育】

社会学部では、2022年度より入学前課題の内容を新たにし、文章の要旨把握問題としました。郵送などによって問題を合格者に届け、期限内に返送してもらい、4月入学の時点で、課題文ごとの模範解答を含んだ説明文と個々の答案別の添削を施したものを担任となった教員から返却し、その後の指導の材料とする、といった手続きを通して行われました。また、高大連携の一つの試みとして、山田高校からの合格者の皆さんには、これに出張講義を組み合わせて行いました。

【東京キャンパスの活動】

「コミュニティ基礎演習」や「社会学専門演習」では、フィールドワークとして千葉県神崎町の環境共生型農業施設や千葉県一宮町の児童養護施設、福島県鮫川村の有機栽培農家（宿泊）、長野県泰阜村の環境教育 NPO（宿泊）、国土交通省荒川河川事務所、江戸川区のこども食堂等を訪ねた。また、東日本大震災の被災地・福島を学びの地として選定し、環境省、福島県飯舘村役場、被災住民自治区などの全面協力を得ながらフィールドワークを実行しました。

行事面では、「東京・青森学生交流事業」として、東京キャンパスの学生 7 人を青森ねぶた祭りに引率した他、青森キャンパスでのオープンキャンパスに東京キャンパス代表者が参加しました。

【森林資源を活用した地域活性化を実施】

社会学部柏谷ゼミは「森林資源を活用した地域活性化」をテーマとしています。五所川原市七和地区をフィールドに、地元のまちづくり団体などと協力しながら、りんご園などで不要になった木を伐採し薪に加工して販売しています。地元の森林資源を燃料として活用することは、温室効果ガスの排出削減や里山の維持管理、新たな生業づくりなどの意義があります。学生たちは、地域づくりの現場での経験を通じて自分なりの研究テーマを設定し、卒業論文を執筆しました。



【著書、論文等】

■ 榎引 素夫

【著書、論文等】

▽論文・研究ノート（査読有り）

榎引素夫（2022）津軽線の行方と鉄道の存廃をめぐる論点、青森大学付属総合研究所紀要、25（1）、pp.1-13

榎引素夫・相坂匠飛・雷霄峰・石倉翠聖・工藤康晴・鈴木流由・三上愛莉（2022）青森大学生は2022年参院選をどうみたかーNHK青森との協働による学生アンケートと授業実践からー、青森大学付属総合研究所紀要、24（1）、pp.30-48

▽論考等（査読なし）

榎引素夫（2023）整備新幹線・2022年の地域政策的論点ー敦賀延伸および西九州開業・札幌延伸をめぐって、地域社会研究、16、pp.9-22

▽その他の寄稿等

榎引素夫（2023）新幹線と並行在来線を地域から考えるー特集 鉄道百五十年 地域の歴史の重み、地理、68(1)、pp.59-67

【学会発表】

榎引素夫・工藤祐介・竹内紀人（2022）青森県における移住・定住促進策の現状と課題（第2報）ー2021年の市町村アンケートからー、東北地理学会・秋季学術大会（2022年5月15日）

榎引素夫（2022）鉄道の行方をどうみるかーJR津軽線の事例からー、経済地理学会・北東支部例会（2022年8月29日）

櫛引素夫・大谷友男（2022）並行在来線が地域医療に持つ可能性と課題－IGRいわて銀河鉄道の通院支援サービス、日本地理学会・秋季学術大会（2022年9月25日）

櫛引素夫（2022）JR津軽線の試練と今後の展望（速報）、東北地理学会・秋季学術大会（2022年10月15日）

【講演】

2031年春・巨大な条件変更 新幹線で札幌／北海道をどう変えるのか、北海道新聞社・北海道政経懇話会（2022年4月20日）

2024年春・新幹線時代の再デザインー巨大な条件変更にどう向き合うか、福井経済同友会・10月例会講演会、2022年10月28日

【研究助成】

地域医療に整備新幹線・並行在来線が及ぼす効果の地理学的研究と地域医療政策への貢献＝日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2021年4月-2024年3月

「人口減少×新幹線」社会の再デザイン③ーポストコロナ時代の仕事づくり・働き方の研究と提言、青森学術文化振興財団 令和4年度助成事業 2022年4月-2023年2月

【その他】

北陸新幹線ワークショップ・「敦賀ー関西」どうなる？ どうする？（企画・司会）、北陸新幹線建設促進同盟会（2022年8月25日）

新幹線フォーラム「『人口減少×新幹線』社会の再デザイン」ー八戸開業20周年・札幌延伸と在来線の行方（企画立案・運営等）、あおもり新幹線研究連絡会（事務局＝櫛引研究室）（2023年1月21日）

■中村 和生

【著書、論文等】

中村和生・水川喜文・五十嵐素子「科学について実践学的に考えるー論理文法分析を道標として」小宮友根・黒嶋智美（編）『実践の論理を描く』勁草書房 第4章 2023年3月

■佐々木 淳一

【著書・論文等】

○「キース・リチャーズになりたいっ！～この厳寒の街、青森で生きてゆくということ～」【音楽編】、【外国映画・TVドラマ編】、【日本映画編】3冊

○総合雑誌「青函考路」論考【谷崎潤一郎『陰翳礼讃』と和辻哲郎『風土』について】

【新聞エッセイほか】

「東奥日報」新聞文化欄コラム【ボブ・ディラン／佐藤良明訳「THE LYRICS（全2冊）」（岩波書店）】

季刊誌「進め！青函連絡船」Vol.4 エッセイ【青函連絡船という記憶の澱が街を優しく覆ってる】

【社会活動・地域貢献・発表等】

1. 「むつ市総合開発計画審議会」委員⇄「むつ市総合計画」後期基本計画への助言とアドバイス等
2. 「青森県市町村振興協会」理事⇄県内市町村で構成する協会の運営
3. 「青森商工会議所」相談役⇄青森商工会議所会員（青森山田学園）組織の相談役
4. 「一般社団法人進め青函連絡船」理事長⇄青函連絡船存続関係団体
5. 「青森学術文化振興財団」懸賞論文選考委員会委員⇄懸賞論文の審査等
6. 「青森市しごと創造会議」委員⇄青森市長の諮問機関
7. 「青森市総合計画審議会」分科長⇄新「青森市総合計画」基本構想・基本計画への助言とアドバイス等

【講演】

「第63回青森県公民館研究フォーラム」基調講演【少子高齢化社会における公民館】

「市民大学講座」【青森市古川市民センター】、【青森市中央市民センター】、【青森市荒川市民センター】講演

「都市（まち）のつくり方」ほか

各学部の主な活動

■清川 繁人

【著書・論文等】

清川繁人 「津軽における「ねぶた」の発祥」 青森大学附属総合研究所 紀要13-20、2023年3月、単著（査読あり）

清川繁人 「忍者学大全」 山田雄司編 東京大学出版会 2023年2月、共著

【新聞コラム】

- 2022年4月22日 EV普及と電力需要 毎日新聞東北版
6月10日 桜の現在・過去・未来 毎日新聞東北版
7月22日 再エネ自然守れるか 毎日新聞東北版
9月16日 異常気象と食糧生産 毎日新聞東北版
10月28日 弘前の忍者200年の足跡 毎日新聞東北版
12月16日 イチョウのご利益に感謝 毎日新聞東北版
2023年2月10日 津軽「女人の関ヶ原」 毎日新聞東北版
3月31日 海の生き物たちに学ぶ 毎日新聞東北版

【新聞掲載】

- 2022年4月15日 弘前城に忍者の裏門か 東奥日報
4月15日 江戸時代の忍者の裏門 陸奥新報
5月13日 忍者気分で大はしゃぎ 東奥日報
5月17日 川内沖にイルカの群れ 読売新聞
5月18日 川内沖イルカいるかな 東奥日報
6月4日 青函の有識者ら誘客実践例紹介 東奥日報
6月9日 弘前城、忍者通った秘密の道？崩落斜面に謎の石段 共同通信配信で全国44紙に掲載
6月9日 陸奥湾でイルカ目撃増 読売新聞
6月15日 カマイルカ間近にジャンプ 河北新報
6月29日 忍者ゆかりの地訪問 東奥日報
7月10日 愛らしいイルカ間近で 毎日新聞
7月26日 服部長門守康成 御忍印に 陸奥新報
8月3日 服部長門守題材ねぶたに 東奥日報
9月20日 忍者の魅力再発見 陸奥新報
10月1日 忍者の足跡 留学生巡る 東奥日報
2023年2月23日 忍者学研究1冊に 毎日新聞
2月23日 忍者の全て詳細に記述 東奥日報

■辻 英之

【論文】

「ひとづくり×地域づくり×=素敵な未来！ 一 泰阜村・グリーンウッド自然体験教委センターの人間形成作用」、【社会教育研究第39号】、北海道大学大学院教育学研究員社会教育研究室

【講演・授業】

- ・北海道中頓別町主催講演会「逆境の今こそ、教育立村への挑戦」
- ・日中韓環境教育ネットワーク (TEEN) 主催フォーラム基調講演「人口1600人の小さな村における自然学校 NPO の挑戦」
- ・トヨタ白川郷自然学校主催研修会「自然体験教育で培われるべき学力と知」
- ・公益社団法人日本環境教育フォーラム主催ミーティング分科会「体験の質を高める～“ホンモノ”とは何か？」
- ・北海道大学・九州大学合同社会教育研究会、「移動の自由」を巡る地域社会教育の展望と課題」
- ・立教大学「自然と人間の共生」非常勤授業（14コマ×2期）
- ・立教大学「リスクマネジメントゼミ」非常勤授業（14コマ）

- ・立教大学「学びを通じた地域創生ゼミ」非常勤授業（14 コマ）
- ・九州大学「社会教育方法論演習」集中講義授業（15 コマ）
- ・駒澤大学「市民社会論」講義
- ・日本女子大学「社会福祉とキャリア」講義

【社会貢献活動】

- ・長野県泰阜村政策アドバイザー
- ・泰阜村コミュニティスクール運営協議会副会長
- ・NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター代表理事
- ・公益社団法人日本環境教育フォーラム（J E E F）常務理事
- ・NPO 法人自然体験教育活動推進協議会（C O N E）常任理事
- ・NPO 法人こどもたちのアジア連合（kidsAU）副代表理事・事務局長
- ・NPO 法人やんばる・地域活性センター理事
- ・メディックファーストエイド（MFA）・トレーナー
- ・東日本大震災の被災地支援

ソフトウェア情報学部



「2022年を振り返って」

ソフトウェア情報学部部长 角田 均

長く続いたコロナ禍の混乱がようやく収束に向かい、様々な活動の自粛が解かれて社会全体の動きが目に見えて活発化する中で、これまで多くの制限の中で不自由な学生生活を送ってきた在学生に対してどれだけ満足度を回復し、どれだけ失われたものを満たすものを提供できるかに腐心した1年でした。様々な研究会や学外でのイベントに積極的に学生を引率し、3年生の学外実習も幕張メッセと東京キャンパスで実施することができました。また混乱の中で培ったオンライン授業の仕組みやノウハウを活かして、専門科目のすべての授業で講義の録画・配信を行う講義ライブラリを構築し、教育の質向上にも取り組んできました。

学部としては2022年度から開学のむつキャンパスに加え、東京キャンパスでも初めての新生を迎え、3キャンパスでの教育体制が本格的に稼働開始しました。各キャンパスへのスタッフ配置や派遣、オンライン環境の整備、学生情報の共有など、3つのキャンパスで均質な教育環境、学生生活環境を提供しつつ、それぞれの地域に根差した特徴的な教育・研究の展開がこれから求められることとなります。

2022年の最後に登場したChatGPTをはじめとする生成型AIが社会を席卷し、あらゆる分野でICTによる破壊と創造が進む中で、新しい世界を構築することができる人材を輩出する役割の重要性がますます高まると考えています。

【卒業研究発表会】

2022年2月13日(月)に令和4年度青森大学ソフトウェア情報学部卒業研究発表会が青森大学5号館5103教室(A会場)と5104教室(B会場)にて開催されました。

青森大学ソフトウェア情報学部では、3年次後期の「創作ゼミナール」で各研究室に配属され研究テーマの設定などの準備を行った後、4年次の「卒業研究」で1年間本格的な研究に取り組むこととなります。本発表会では、本学部の4年生がこの1年で得られた研究成果についてスライドを用いて口頭発表を行いました。各研究室の発表リストは以下の通りです。

【A会場】

江口研究室(3名)

Webサイト制作「スターバックスのカスタマイズの魅力」

分かる・楽しめる 初学者向け音楽学習サイト

2022年日本国内音楽人気ランキング

坂井研究室(9名)

JetBotを用いた強化学習の教材開発

青森県産りんごの精度識別をおこなう画像認識Webアプリの開発

音声を用いた画像生成の実用化検証

手書き楽譜認識システムの開発

姿勢推定を用いた投球動作の分析

ディープラーニングを用いた競馬の予想

EV3を使った自動運転の教材

GANを用いた寿司の異常検知

学生駐車場のスマート化

角田研究室（8名）

効率的に日程調整できるカレンダーアプリケーション開発
モバイルアプリ制作セミナー
デジタルマーケティングと効果検証
高等学校情報Iにおけるプログラミング授業モデル
Web デザインセミナー
トイレマップアプリの開発
Android 端末向けポータルフォリオアプリの開発
水環境健全性指標データ表示アプリケーションのフレームワークの移行

藤澤研究室（7名）

ロボットアームによる鍵の施錠、解錠操作
Android 用の位置共有アプリ開発
リアルタイム CG を用いたじゃんけんゲーム
フェイストラッキングと音声認識
Vtuber の作成・運用
手軽な 2D アバターの作成と運用
3D キャラクターモデル作成の為のマニュアル制作

【B 会場】**大島研究室（6名）**

Swift を用いた iOS 日記アプリ開発
八甲田周辺地域における観光サイトの作成
青森県と東北 2 県における新型コロナウイルス陽性者数の時空間変動解析
一対比較による好みを考慮した青森観光ランキングの調査
弘前城のシルエットに四季のアニメーションを付ける
アルバイト先の新人さんに教える記録ノートの WEB アプリ開発

鈴木研究室（6名）

生態系シミュレーション～ウサギ対ヒツジ～
インフルエンザとコロナウィルスの混合流行
収束概念をプログラミングで表す
太陽系の楕円軌道
人工衛星の打ち上げシミュレーション
スキージャンプシミュレーション

黒田研究室（6名）

3DCG を用いたクワガタムシのリアルな歩行アニメーションの制作
アリの歩容解析と 3 次元物理演算エンジン (ODE) による歩行モデルの制作
8 足歩行生物 (クモ・タコ) の歩容解析
得られる情報が制限された謎解き脱出ゲームの制作
ムカデの歩容解析と這う生き物の歩行モデリング: 尺取虫からムカデまで
3DCAD と 3D プリンターによる貝殻の設計・製作およびヤドカリ実験

各学部の主な活動

和島研究室（7名＋共同研究1名）

青森大学アーチェリー部紹介 Web サイトの制作

桜咲く弘前公園のジオラマ製作

教育現場で使える便利なもの

青森大学のジオラマ製作

ライントレーサの製作

光学的歪みを利用したコンテンツの制作

プロジェクションマッピングを活用したリラクゼーション効果の検証

各発表者が10分間の口頭発表を行った後、3分間の質疑応答が行われました。各発表者は自身の研究成果を要領よくプレゼンテーションし、学生や教員から出された質問に対して的確に回答していました。

この発表会は本学における4年間の学びの集大成である卒業研究のまとめとして行われるものです。学生はこの経験を土台とし卒業後社会人として次のステップに進んでいくことになります。



【青森山田高校 IT ビジネス科向け特別授業】

ソフトウェア情報学部では毎週火曜日と水曜日の午前、青森山田高校 IT ビジネス科の2年生と3年生を対象として学部スタッフによる特別授業を実施しています。大学の講義の導入部や大学生が取り組む研究内容の紹介、情報工学・情報科学分野の最先端の紹介など、オムニバス形式で高校生に情報学分野の魅力を伝える取り組みです。

2022年度は2年生の授業で新しい試みとして、大学生が担当する授業を行いました。角田研究室の4年生が取り組んでいる卒業研究の中で、ノーコードアプリ開発、Webデザイン、プログラミング教育の3テーマについてのプログラミング入門セミナーをシリーズで実施しました。普段の教員による授業とは異なり、世代の近い大学生による授業であったために高校生が楽しめ、大学生にとっても卒業研究の実証実験として役立てられました。3年生の授業では、昨年の特別授業で学習したScratchを使って、プログラミングによるゲーム開発を行いました。大学生のサポートによってスムーズに進めることができました。また、和島教授による2年生と3年生の授業では、校内ウォークスルーシステムをテーマにGoogleストリートビューのような校内を歩き回れるサイトを作成しました。



青森山田高校 IT ビジネス科向け特別授業スケジュール

2年生（火曜 3,4 時間目）			3年生（水曜 3,4 時間目）		
日程	内容	担当者	日程	内容	担当者
4月5日			4月6日		
4月12日	(休講)		4月13日	プログラミング (3)	角田
4月19日	(休講)		4月20日	プログラミング (4)	角田
4月26日	(休講)		4月27日	プログラミング (5)	角田
5月3日			5月4日		
5月10日	プログラミング言語目録	角田	5月11日	プログラミング (6)	角田
5月17日	数値シミュレーション入門 (1)	鈴木	5月18日	プログラミング (7)	角田
5月24日	数値シミュレーション入門 (2)	鈴木	5月25日	プログラミング (8)	角田
5月31日	数値シミュレーション入門 (3)	鈴木	6月1日	プログラミング (9)	角田
6月7日			6月8日	プログラミング (10)	角田
6月14日	データ解析入門 (1)	大島	6月15日	プログラミング (11)	角田
6月21日	データ解析入門 (2)	大島	6月22日	プログラミング (12)	角田
6月28日			6月29日		
7月5日	数理モデリング入門 (1)	黒田	7月6日		
7月12日	数理モデリング入門 (2)	黒田	7月13日		
7月19日			7月20日		
7月26日			7月27日		
8月2日			8月3日		
8月9日			8月10日		
8月16日			8月17日		
8月23日			8月24日	機械学習の仕組み	藤澤
8月30日			8月31日	(旅行)	
9月6日	数理モデリング入門 (3)	鈴木	9月7日	(休講)	
9月13日			9月14日	地域をデータで知る (1)	坂井
9月20日	(オンライン)	小野	9月21日	地域をデータで知る (2)	坂井
9月27日			9月28日		
10月4日			10月5日		
10月11日	(学生担当:板垣)ノーコードアプリ開発 (1)	角田	10月12日	校内ウォークスルーシステム (1)	和島
10月18日			10月19日	校内ウォークスルーシステム (2)	和島
10月25日	(学生担当:板垣)ノーコードアプリ開発 (2)	角田	10月26日	校内ウォークスルーシステム (3)	和島
11月1日	(学生担当:竹田)HTML/CSSによるWebデザイン (1)	角田	11月2日	校内ウォークスルーシステム (4)	和島
11月8日			11月9日		
11月15日	(学生担当:竹田)HTML/CSSによるWebデザイン (2)	角田	11月16日	(学生担当:四戸)アルゴリズム+Python	角田
11月22日			11月23日		
11月29日			11月30日	情報とバイナリー (1)	江口
12月6日	(学生担当:四戸)アルゴリズム+Python	角田	12月7日	情報とバイナリー (2)	江口
12月13日	仮説の正しさをデータで逐次更新～「確率・統計」の授業より～	穴田	12月14日		
12月20日			12月21日		
12月27日			12月28日		
1月3日			1月4日		
1月10日			1月11日		
1月17日	校内ウォークスルーシステム (1)	和島	1月18日	数値シミュレーション入門	鈴木
1月24日	校内ウォークスルーシステム (2)	和島			
1月31日	校内ウォークスルーシステム (3)	和島			
2月7日	校内ウォークスルーシステム (4)	和島			
2月14日	自然言語処理	藤澤			
2月21日	RPA 体験	坂井			

【学外実習】

ソフトウェア情報学部の3年次後期集中授業「学外実習」では、情報技術の実社会での活用や最先端の動向、また就職活動に有用なスキルを養うことを目的として掲げています。2022年度は次のA) B) を体験することとし、2022年10月19日(水)、20日(木)に一泊二日で3年次学生およそ50名が東京方面へ旅行しました。

A) 情報・エレクトロニクス技術展示会 CEATEC2022 見学(幕張メッセ、千葉市美浜区)

B) 情報技術系4社企業研究会出席(青森大学東京キャンパス、東京都江戸川区)

A) に関し、CEATECは国内最多規模の出展数であり、このためIT系の大手から中小の企業、また大学の展示を多数見学することが出来ました。学生は、持続可能な開発目標(SDGs)や仮想現実・拡張現実(VR、AR)といったテーマの様々な情報技術の紹介に触れ、思い思いに感触を得ました。

B) については、東京キャンパスの利便性を活かし、東京近郊に拠点を置く4社に来訪頂きました。学生は、情報技術系企業の一般的な事業内容、また各社の事業や働き方の特色について説明を聴講しました。対面での説明に就職活動の啓発を受けた様子で、企業インターンシップ等について質問する等、自分のこととして情報収集していました。

【ソフトウェア情報学部の卒業研究を高校生に紹介】

2022年5月31日(火)と2022年6月1日(水)に青森山田高校3年生による大学見学会が開催され、ソフトウェア情報学部の4年生が現在取り組んでいる卒業研究を高校生向けにわかりやすく紹介しました。

見学会では参加者の高校生が希望学部ごとに別れ、学部ごとに設定されたメニューで大学見学を実施しました。ソフトウェア情報学部ではスタッフ(黒田教授等)による最新の研究紹介を行う模擬授業に続いて、実際に研究室に移動してゼミ紹介を行いました。

主にソフトウェア開発をテーマとする角田研究室では、2名の学生が自分達の卒業研究を紹介しました。1つめのテーマはAndroid Studio × Flutterによるスマホアプリ開発、2つめのテーマはAdaloによる最新のノーコードによるモバイルアプリ開発セミナーの企画と、同じ「モバイルアプリケーション開発」に対してまったく異なる開発スタイルで取り組む研究について、スライドを使ってわかりやすく高校生に紹介しました。

また立体造形やプロジェクションマッピングをテーマとする和島研究室では、1名の学生が3Dプリンターを用いた弘前城や三内丸山遺跡のモデリング再現の研究について紹介しました。研究室にある様々な造形機や測定用のドローンなどの装置に、高校生も興味深そうに見入っていました。

ソフトウェア情報学部の各研究室では4年生の学生が3年後期から開始した研究が中間地点に差し掛かる時期で、2023年1～2023年2月の成果発表に向けて研究活動が活発になるタイミングの中間報告としての研究紹介になりました。



【ソフトウェア情報学部の学生によるデジタルマーケティングの講義】

2022年6月1日(水)にソフトウェア情報学部でデジタルマーケティングをテーマに卒業研究を進めている学生が、高大連携で課題研究に取り組んでいる青森商業高校の3年生向けに講義を実施しました。

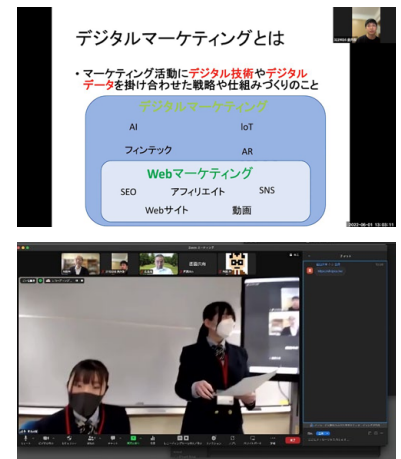
ソフトウェア情報学部の角田研究室では県内の商業高校との高大連携を通じて、デジタルマーケティングをテーマとした研究に数多くの学生が取り組んでいます。今回は「SNSマーケティング」をテーマに研究を進めている学生が、青森商業高校の課題研究で独自開発商品のインターネットによる販路拡大に取り組んでいるチー

ムの高校生向けに「Webマーケティングの基礎と市場分析の手法」の講義を実施しました。

講義はオンラインで実施、「青商ビジネスチャレンジ with 台湾事業」でホタテパスタソースを開発、販売を目指す商業科のチーム 19 名と、Webマーケティングによる販路拡大を目指す情報処理科のチーム 7 名が聴講しました。講義ではデジタルマーケティングの基本的な考え方やインターネットによる市場分析の手法を紹介、また具体的な事例としてオープンデータの活用方法やターゲットとなる台湾の市場調査の方法についての提案を行いました。

また商業科のチームからの商品紹介のプレゼンテーションを受け、質疑応答や進め方についてのアドバイスなども行いました。

2022 年 7 月にはより進んだ内容の講義を実施する予定です。



【大湊高校でプログラミング教育の研究実践】

ソフトウェア情報学部でプログラミング教育の研究に取り組む 4 年生が、大湊高校で実際にプログラミングの授業を実施、効果検証を行なっています。

ソフトウェア情報学部では学部カリキュラムの中心であるプログラミングについて、いかに上手に学び、また教えるかを考えるために、さまざまな取り組みを行なっています。今回はプログラミング入門者への効果的な導入教育を卒業研究のテーマにしている 4 年生が、自分で立案した授業モデルを使って母校でもある教育実習先の大湊高校の 1 年生を対象に実証実験に取り組みました。

大湊高校の先生にもご協力いただき、2022 年 5 月 12 日 (木) ~ 2022 年 6 月 1 日 (水) の実習期間中の授業の中でクラスごとに言語ベースとゲームベースの 2 種類の異なるスタイルで授業を実施、受講者の反応や理解度を比較しました。どちらのスタイルでも生徒さんたちは真面目に授業を受け、実習に取り組んでくれました。大湊高校でのプログラミングの授業で得られたデータに加え、受講後の理解度調査などの分析を進めて卒業研究にまとめる予定です。



【青森県警察サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式】

青森県警察サイバー防犯ボランティアの委嘱状がソフトウェア情報学部 1 年生 15 名に交付されました。

サイバー防犯ボランティアの活動は青森県警察によるサイバー犯罪防止のための事業として行われているもので、昨年度に続けてソフトウェア情報学部の学生が参加することとなりました。活動開始にあたって 2022 年 6 月 20 日 (月) に青森大学青森キャンパスでボランティアの委嘱式が行われ、青森県警察本部生活安全部から委嘱状の交付を受けました。また学生代表による決意表明が行われ、安全・安心なサイバー空間の確保に貢献することを誓いました。

サイバー防犯ボランティアの今後の主な活動として、大学生による児童・生徒向けのサイバーセキュリティセミナーの実施を計画しており、ストーリーやプレゼンテーション資料の作成などを進める予定です。



【むつキャンパス 1年生にサイバー防犯ボランティア委嘱状交付】

青森キャンパスでの委嘱式に続けて、むつキャンパスでも2022年6月24日（金）に青森県警察サイバー防犯ボランティアの委嘱式が開催されました。

青森県警察ではサイバー犯罪未然防止事業の一環として、県内小中学校・高等学校における情報モラル講話を中心とした教育・広報活動や、サイバーパトロール活動を行う「青森県警察サイバー防犯ボランティア」の育成を推進しており、今年度は青森キャンパスから15名、むつキャンパスから3名のソフトウェア情報学部1年生が参加します。むつキャンパスで実施された委嘱式では今井ゼミ所属の1年生が青森県警察本部サイバー犯罪対策課から委嘱状の交付を受けました。青森県警察によるむつ市でのサイバー防犯ボランティアの活動は初めての取り組みとなるため、学生たちの新しいアイデアによる活動が期待されています。



【中学生向けにプログラミング体験授業を実施】

むつキャンパスで開催された佐井中学校の生徒による大学見学会で、ソフトウェア情報学部4年生の卒業研究の一環としてプログラミング体験授業を実施しました。

2022年6月28日（火）午後に佐井中学校の全校生徒33名がむつキャンパスに来学、大学スタッフによる大学紹介とキャンパスツアー、模擬授業を実施しました。キャンパスツアーではむつキャンパス社会学部1年生とソフトウェア情報学部の学生が中学生を引率して新しいキャンパスを案内しました。

ソフトウェア情報学部の模擬授業では、4年生の学生が卒業研究で取り組んでいる入門者向けのプログラミング導入教育の研究を紹介しました。研究の中で、高校生を対象に実証実験を行ったゲームベースの導入カリキュラムをもとに、中学生向けにプログラミングの体験授業を実施、高校生向けとの比較を行いました。8月には小学生向けの体験授業を実施し、さまざまな年齢の受講者に対する導入教育の効果や反応を調査する予定です。



【サイバー防犯ボランティアの学生チームが情報モラル教室を見学】

ソフトウェア情報学部1年生のサイバー防犯ボランティアチームが青森南中学校で開催された青森県警察本部による情報モラル教室を見学しました。

法務省による「第72回社会を明るくする運動」の取り組みとして、青森地地区護司会の主催による学校連携事業が2022年7月11日（月）に青森南中学校で開催されました。行事では岸田総理大臣によるビデオメッセージや鉄拳さんのパラパラマンガの上映に続けて、青森県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課による中



生向けの情報モラル教室が実施されました。見学で参加したサイバー防犯ボランティアの学生にとっても非常に勉強になり、大学生が実施する小中学生向けの啓発セミナーの企画にも参考になる内容の講話を聞くことができました。

【ET ロボコン 2022 東北地区公式試走会に参加】

ETロボコン研究会のメンバーがETロボコン2022の東北地区公式試走会に参加しました。

ETロボコンは組み込み技術(Embedded Technology)のエンジニア育成を目指して、高校生、大学生、専門学校生、企業等、初心者からベテランまで幅広い参加者が相互に刺激し合いながら学ぶ場として平成14年から毎年開催されている全国大会です。7月23日(土)にいわて県民情報交流センター(アイーナ)で開催された東北地区の公式試走会には17チーム50名が参加、3年ぶりのリアル開催となる大会に向けて実コースでの試走を行いました。青森大学ETロボコン研究会からはソフトウェア情報学部所属の3名が参加、機体の調整や走行プログラムのチューニング、記録などを実施しました。

この後さらに2022年8月20日(土)と2022年9月10日(土)の2回の試走会を経て、2022年9月23日(金)に開催される東北地区大会で全国大会出場を目指します。



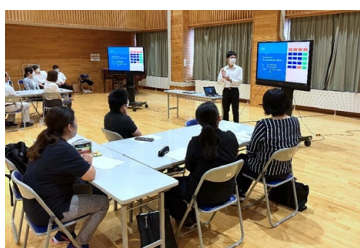
【ソフトウェア情報学部の学生が野辺地町学校 ICT 研修会で研究紹介】

2022年8月1日(月)に開催された野辺地町学校 ICT 研修会で、ソフトウェア情報学部から派遣されている ICT 支援員の学生が研究紹介を行いました。

ソフトウェア情報学部では今年度、野辺地町教育委員会からの依頼を受けて野辺地町の小中学校4校(野辺地小学校、若葉小学校、馬門小学校、野辺地中学校)に6名の4年生を ICT 支援員として派遣しています。今回は ICT 支援員の活動の一環として、野辺地中学校で開催された教職員向けの研修会に参加、受付や司会、記録担当などの運営業務に加えて、研修前半のセッションに大学で学んできたことや現在卒業研究で取り組んでいる内容などをプレゼンテーションしました。自分達の持つスキルや知識を理解してもらうことで、小中学校での ICT 支援の幅を広げ、授業や校務の高度化につなげることを目的としています。

また後半の情報交換会では派遣先の学校の教職員とのグループディスカッションに参加、支援員を通じて各校の ICT 活用のノウハウやアイデアを共有するための話し合いを行いました。

ソフトウェア情報学部では野辺地町教育委員会との協力のもと、学生が大学で学んだ知識や技術を活かせる地域連携の機会として、また教職を目指す学生にとっては現場を経験できるインターンシップの場として、来年度以降も継続的に ICT 支援員派遣を行う予定です。



【3D プリンターによる立体造形の研究成果を報告】

2022年8月6日(土)に開催された芸術科学会東北支部研究会でソフトウェア情報学部の4年生2名が研究発表を行いました。

芸術の科学的な分析研究や科学的な手法による芸術作品の創作、メディアアート・エンタテインメントの研究などを研究領域とする芸術科学会の研究会、令和4年度第1回東北支部研究会が東北学院大学主催で開催されました。オンラインで開催された研究会では岩手大学から4件、青森大学から2件の研究報告が行われました。

青森大学からはソフトウェア情報学部和島研究室の4年生2名が、3Dプリンターを用いた立体造形の研究について、創作ゼミナール(3年生)での成果と卒業研究(4年生)の経過を発表しました。

各学部の主な活動

報告セッション (5)

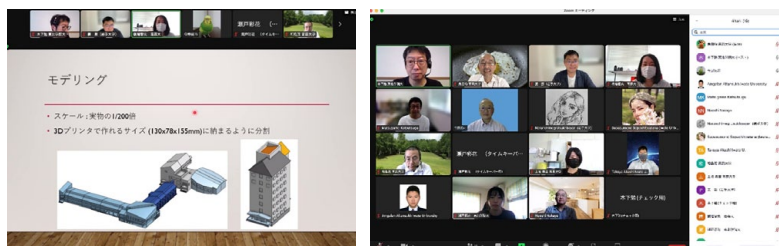
「3D プリンターを用いた大学のジオラマ製作」

報告セッション (6)

「3D プリンターを用いた学校生活で使える便利なもの作成」

発表に続いての質疑応答では、モデリングやスライシングの工夫や強度の計算、精度の向上などについて、活発な意見交換が行われました。

発表したソフトウェア情報学部和島研究室の4年生2名はこの後、今回の研究会で他大学の研究者から出された意見や提案も参考にしながら、卒業研究の完成と卒業論文の作成に取り組みます。



【小学生親子プログラミング教室で学生が指導・サポート】

夏休みに合わせて八戸、青森、弘前の3市で開催された小学生親子プログラミング教室でソフトウェア情報学部の学生が指導・サポートを担当しました。

ソフトウェア情報学部では毎年、株式会社ソフトアカデミーあおもりとの共同で小学生向けのプログラミング教室を開催しており、毎回学生が指導・サポート担当で参加しています。今年度のプログラミング教室は株式会社ソフトアカデミーあおもりの主催で、特別協賛の青森県民共済生活協同組合の加入者の家族向けに2022年7月から2022年8月にかけて県内3市で開催され、毎回4名、1年生から4年生までのべ16名の学生がスタッフとして参加しました。

- 2022年7/30 (土) 八戸会場
- 2022年8/5 (金)、8/6 (土) 青森会場
- 2022年8/11 (木) 弘前会場

今回は小学生の子供と保護者が親子でプログラミングに挑戦する「小学生親子プログラミング教室」として実施、ゲーム・クリエイターのさくまあきらさんと株式会社コナミデジタルエンタテインメントの協力のもと、「桃太郎電鉄」をモチーフとしたすごろくゲームのプログラミングにチャレンジしました。



参加者の親子2組(4名)のチームに対してそれぞれ1名の学生スタッフがサポートにつき、ソフトアカデミーあおもりの講師が統括する形で実施、全体説明につづけて各チーム学生スタッフの指導でプログラミングに取り組みました。グループワークですごろくゲームの担当ブロックを割り振り、各ブロックのプログラムを課題に沿ってプログラミング、最後にプログラムをマージしてゲームとして完成させました。例年に比べて難しい内容のプログラミングでしたが、すべての参加者が3時間の教室に真剣に取り組み、プログラムを完成させてゲームを楽しむことができました。実施後のアンケートでも「あつという間だった」「また参加したい」「スタッフの教え方が上手だった」などの意見をいただくことができました。

参加したソフトウェア情報学部の学生にとっても大学での学びを活かした社会連携活動として大変良い経験となりました。

【ジョブキッズあおもり 2022「プログラミングを教えるしごと」を実施】

2022年8月19日（金）にジョブキッズあおもり 2022の小学生向けアトラクションとして、ソフトウェア情報学部の学生による企画・運営でプログラミング体験イベントを実施しました。

ジョブキッズあおもり 2022は、地域の産官学が連携して子どもたちの職業意識を高める場を提供することを目指して設立されたジョブキッズあおもりコンソーシアムによるイベントで、2022年の7～8月にかけて県内各地で参加企業・団体・学校での職業体験アトラクションが実施されています。青森大学では「大学のしごと」の一つとして、ソフトウェア情報学部で取り組んでいるプログラミング教育の研究に参加・体験してもらう「プログラミングを教えるしごと」を企画しました。

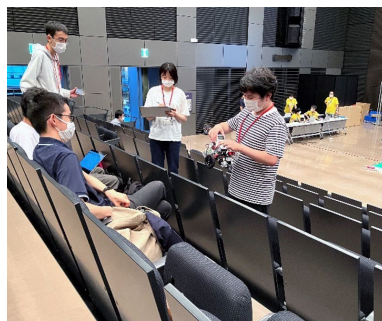
今回はプログラミング教育のテーマで卒業研究に取り組んでいる角田研究室4年生6名がアトラクションの企画から運営、指導、サポートまで担当しました。アトラクションには小学1年生～6年生までの子どもたち16名とその保護者が参加、「アルゴロジック」を使ったプログラミング入門講座を体験しました。パズル感覚で問題を解きながらプログラミングの基本であるアルゴリズムの基礎を学べる構成で、初めての子どもたちも保護者やサポート学生と一緒に考えながら一生懸命取り組んでくれました。

【ETロボコン 2022 東北地区公式試走会（2回目）で模擬レースを実施】

2022年8月20日（土）に開催されたETロボコン東北地区の試走会に青森大学ETロボコン研究会のメンバー3名と青森工業高校チーム鷺鷺鳴のメンバー2名が参加しました。

前回に続いていわて県民情報交流センター（アイーナ）で開催された2回目試走会では、本番のコースを使ったチーム対抗の模擬レースが実施されました。今回はソフトウェア情報学部のメンバー3名に加えて、「青大ロボコン研+鷺鷺鳴」として合同で活動している青森工業高校のメンバー2名が記録や撮影を担当しました。何度も試走を繰り返しながら機体や走行プログラムを調整、模擬レースではリタイヤとなりつつもゲート2つをクリアして成績上位に入ることができました。

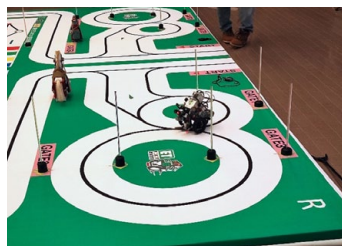
2022年9月の本大会では青森大学のチームはプライマリークラスに、青森工業高校のチームはエントリークラスに出場する予定です。



【ETロボコン 2022 東北地区独自試走会に出場】

2022年9月10日（土）に開催されたETロボコン東北地区の独自試走会に青森大学ETロボコン研究会のメンバー3名が参加しました。

2022年9月23日（金）の地区予選本番直前の東北地区独自の試走会が開催され、予選にエントリーした多くのチームがいわて県民情報交流センター（アイーナ）に集まりました。青森大学ETロボコン研究会からはソフトウェア情報学部の学生3名が参加、予選前のインタビューや走行体の車検などに臨みました。模擬レースではリタイヤ続出の中で唯一ゴールまで完走、全国大会（パシフィコ横浜）への進出が期待されます。



【RAB まつり 2022 でサイバー防犯ボランティア活動に従事】

ソフトウェア情報学部 1 年生が RAB まつり 2022 でサイバー防犯ボランティア活動に従事しました。

2022 年 9 月 10 日 (土)～2022 年 9 月 11 日 (日) に盛運輸アリーナ (青森県営スケート場) で開催された RAB まつり 2022 に出展した青森県警本部のブースで、サイバー防犯ボランティアを委嘱されたソフトウェア情報学部の 1 年生が家族向け展示のサポートを行いました。ぼる塾さんや古坂大魔王さんをはじめ、人気のゲストが多数出演するイベント会場のブースには多くの見学者が訪れました。県警本部のブースでは子供向けにパトカーや白バイの乗車体験、機動隊の装備展示、鑑識体験やインターネット安全教室などの展示が行われ、1 日目 4 名、2 日目 3 名のサイバー防犯ボランティアの学生が家族連れの誘導や子供の補助などを行いました。



【エフエム青森 35 周年記念イベントでサイバー防犯ボランティア活動】



ソフトウェア情報学部の 1 年生 6 名がエフエム青森開局 35 周年の記念イベントで青森県警ブースの運営に協力しました。

2022 年 9 月 17 日 (土)～2022 年 9 月 18 日 (日) にモヤヒルズで開催されたイベントでは、王林さんをはじめとする人気アーティストによる公開録音やライブ、トークショーなどが行われるファンミーティングに加え、キャンプフェスや防災フェスなどが開催され、物販・グルメブースも含めて多数の来場者で賑わいました。防災エリアに出展した青森県警のブースでは特殊車両の展示や試乗、子供向けの制服試着コーナー、サイバー防犯コーナーなどが設けられ、多くの家族連れが訪れました。県警ブースの運営にはソフトウェア情報学部から両日 3 名ずつのサイバー防犯ボランティアの学生が参加し、各コーナーでの接客や来場者へのチラシ配布などに従事しました。

【ET ロボコン 2022 全国大会に青森大学チームが出場決定】

2022 年 9 月 23 日 (金) に開催された ET ロボコン東北地区大会に青森大学 ET ロボコン研究会のチームが出場、予選を突破して全国大会への出場が決定しました。

組み込み技術 (Embedded Technology) のエンジニア育成を目指して全国で開催されている ET ロボコン 2022 の東北地区大会がいわて県民情報交流センター (アイーナ) 7F の小田島組☆ほ～で開催され、東北地区の一般企業、大学、高専、高校から 20 チームが競技に参加しました。会場内の密を避けるために入場制限された中で、青大 ET ロボコン研チームからはソフトウェア情報学部の 3 年生学生 2 名がチームを代表してエントリーしました。会場では各チームとも厳正な車体検査を受けた上で、左右 2 種類のコースで 2 回のタイムアタックを行いました。ロボコン研チームの機体は 3 回の試走会を経てチューニングしたプログラムで難所もクリア、多くのチームがリタイアする中で完走を果たし、出場 20 チーム中総合 4 位の成績で予選を突破、2022 年 11 月にパシフィコ横浜で開催されるチャンピオンシップ大会への出場が決定しました。チャンピオンシップ大会では全国 9 地区 (北海道、東北、東京・北関東、南関東、東海、関西・北陸、中四国、九州北・九州南、沖縄) から選出されたチームが参加 203 チームの頂点を目指して競技に臨みます。



【2022 青大祭 ソフトウェア情報学部の出展】

2022年10月1日(土)から10月2日(日)の二日間、青森大学 青森キャンパスにて『2022 青大祭』が開催されました。2020年以來、2年ぶりの開催となった本イベントは当日の天候にも恵まれ、多くの来場者に御参加いただけました。

ソフトウェア情報学部も企画参加として、5号館1階の学生ブースを中心に研究紹介展示を行いました。ダンゴムシの生態に着目した観察・体験型企画やプログラミング教室など、それぞれの研究室の特色を活かした展示により、御来場の皆様へ学部の魅力を発信することができました。

当日の研究展示には青森大学むつキャンパスの学生らもスタッフとして参加しており、普段異なるキャンパスで学ぶ学生らの交流などもあって、学生にとっても実りある二日間となりました。

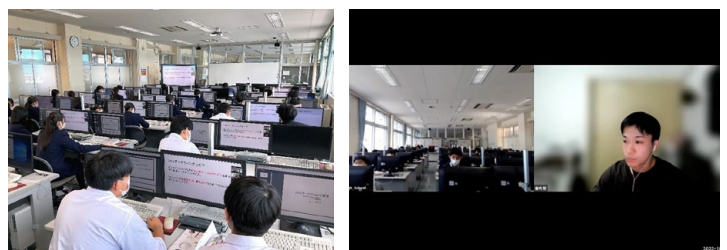


【弘前実業高校でデジタルマーケティングの研究紹介】

2022年10月12日(水)に実施された弘前実業高校情報処理科2年生向けの特別授業の中で、ソフトウェア情報学部の4年生がデジタルマーケティングの研究紹介を行いました。

ソフトウェア情報学部のスタッフによる弘前実業高校情報処理科2年生向けの特別授業は、2018年度から毎年連続で実施されており、今年度もソフトウェア情報学部の角田教授が担当してデジタルマーケティングをテーマにした講義を実施しました。講義ではSEO(Search Engine Optimization)やデジタル広告の仕組み、オンラインショップの拡販戦略など、デジタルマーケティングで用いられる技術や最新のトピックスを紹介しました。

また講義に先立って、ソフトウェア情報学部4年生1名がオンラインで参加、卒業研究で取り組んでいるWebマーケティングの研究を紹介しました。本学生はこれまでも青森商業高校でも課題研究チーム向けに講義を行っており、デジタルマーケティングの基礎から実際に現在取り組んでいるWebマーケティングの内容など、高校生にわかりやすく解説しました。



【ソフトウェア情報学部1年生ゼミでインターネット安全教室を実施】

2022年11月7日(月)の午後、青森県警察主催のインターネット安全教室が青森大学青森キャンパスとむつキャンパスを繋いで実施され、サイバー防犯ボランティアに登録したソフトウェア情報学部1年生17名が参加しました。

講師に独立行政法人情報処理推進機構(IPA)セキュリティセンターの石田主幹を青森キャンパスの教室にお招きし、オンラインの講義システムを使ってむつキャンパスに配信、双方の教室から学生が参加してグループワークと模擬授業を実施しました。またむつキャンパスにはむつ市教育委員会からの参加者が出席、オンラインでは弘前大学のサイバー防犯ボランティア学生も参加しました。今回は参加した学生を4グループにわけ、IPAの提供する教材を用いた模擬授業に取り組みました。講師による説明につづけて、グループワーク

各学部の主な活動

で説明の分担や上手に伝えるための工夫などを検討しました。後半では各グループが模擬授業を実施、想定対象の中学生に興味を持ってもらえるよう、インタラクティブなやり取りや即興の芝居などを取り入れたプレゼンテーション内容で、講師からも高評価をいただきました。

教室の最後には青森県警察本部サイバー犯罪対策課からインターネット・ホットラインセンターの紹介が行われ、サイバー防犯ボランティアとして違法・有害情報の発見と通報の協力依頼が行われました。



【Google オフィス訪問 (東北 TECH 道場 10 周年記念イベント)】

東北 TECH 道場で CS50@ 青森道場チームとして活動しているソフトウェア情報学部 1 年生 6 名が Google 日本法人のオフィス (東京渋谷) を訪問しました。

ソフトウェア情報学部では Google 社による支援のもと、東日本大震災からの復興と技術者育成に取り組む「東北 TECH 道場」の青森道場を 2016 年から主催し、地域の高校生・大学生・社会人による情報人材育成に取り組んでいます。現在はソフトウェア情報学部 1 年生の有志 6 名が「CS50@ 青森道場」として、ハーバード大学が提供するオンラインのコンピュータサイエンスコース (CS50) をベースに勉強会を実施しています。

今回、東北 TECH 道場の 10 周年を記念するイベントが 2022 年 11 月 16 日 (水) に Google 社の日本オフィス (東京・渋谷ストリーム) で開催され、東北各地の道場から道場生や道場主が参加して活動報告や道場で開発中のアプリ紹介などを行いました。青森道場からも道場生 6 名が参加、勉強会の様子や、英語学習のための Web アプリ開発の目標について紹介しました。

懇親会に続けて実施された Google 社内のオフィス・ツアーでは、ラウンジやスポーツジム、ゲームスペースなど、快適で遊び心も満載のオフィス空間を見学することができました。



【EdgeTech+2022 見学 (パシフィコ横浜)】

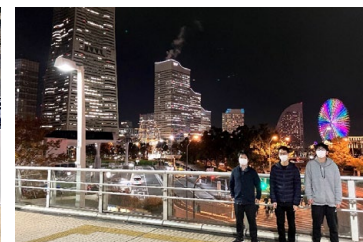
2022 年 11 月 16 日 (水) にソフトウェア情報学部 3 年生がパシフィコ横浜で開催中の組込みシステム技術協会主催の展示会 EdgeTech+2022 を見学しました。

EdgeTech+2022 は昨年まで ET & IoT 展として ET (Embedded Technology : 組み込み技術) と IoT (Internet of Things : モノのインターネット) をテーマに毎年開催されてきた技術展示会の内容に加えて、「クラウドネイティブ/ソフトウェアファースト」や「エッジ AI」「DX 推進」などのテーマを含めた総合展として開催されています。2022 年度は 2022 年 11 月 16 日 (水) ~ 2022 年 11 月 18 日 (金) の 3 日間、パシフィコ横浜を会場に国内外から 266 社/団体が出展して開催されました。

今回は展示会の特別企画として同時開催される ET ロボコンチャンピオンシップ大会に「青大ロボコン研究会 P+ 鷺鷥鳴」として出場するソフトウェア情報学部の 3 年生 3 名が、17 日の競技会本番に先行して行われた前日試走会 + 車検の合間を縫って、展示会の見学を行いました。

ロボティクスやセンサ AI、IoT クラウドなど、2022 年 10 月に 3 年生の学外実習で見学した展示会 CEATEC

(幕張メッセ) に比べて、よりハードウェア色の強い、ものづくり感が満載の展示が数多く見られました。主にソフトウェア分野について学ぶことの多い学部の中で、一番ハードウェア寄りの活動に取り組んでいるロボコン研のメンバーに最適な展示会見学でした。



【ET ロボコン 2022 チャンピオンシップ大会に出場】

2022年11月16日(水)～2022年11月18日(金)にパシフィコ横浜で開催されたETロボコン2022チャンピオンシップ大会にソフトウェア情報学部3年生が出場、全国の強豪チームとレースタイムを競いました。

3年ぶりのリアル会場での開催となった今大会では、2022年9～10月に開催された全国9地区の予選を勝ち抜いた40チームがEdgeTech+2022開催中のパシフィコ横浜展示ホールに設営されたコースでチャンピオンシップを目指してレースに挑みました。東北予選を突破した青森大学ソフトウェア情報学部+青森工業高校情報技術科の合同チーム「青森大学ロボコン研 P+ 鷺鷺鳴」からはソフトウェア情報学部3年生3名が代表で出場、L/Rの2コースで前半のタイムアタックと後半の難所攻略に臨みました。

初回走行のRコースでは東北地区大会でのタイムを上回る、予選を含む全チームでも12位の成績となる好タイムで完走しましたが、2回目のLコースでは途中リタイヤとなり、入賞は果たせませんでした。

3年生中心のETロボコン研では、今回の予選・大会での経験を踏まえて次回のETロボコン2023での優勝を目指して活動を開始しています。



【高校生向け特別授業でスマホアプリ開発の研究紹介】

ソフトウェア情報学部4年生が卒業研究で取り組んだスマホアプリ開発について、高校生向けの特別授業で紹介、成果報告を行いました。

2023年2月15日(水)の午前中、青森山田高校で普通科キャリアアップコース向けに実施したソフトウェア情報学部スタッフによる特別授業の中で、サポートスタッフで参加した角田研究室の4年生が卒業研究で開発した「青森県トイレマップ」の研究紹介を行いました。3年生の創作ゼミナールの段階から企画、設計し、4年生の卒業研究で実装を進めたAndroid用アプリケーションで、Flutterのフレームワークを利用して開発しました。クラウドサービスのFirebaseやGoogle Maps APIを活用したマッシュアップサービスで、スマホユーザーが素早く近くのトイレを探すことのできる機能を実現しています。

利用規約やプライバシーポリシーなども整備してAndroid公式のGoogle Playストアにも登録し、誰でも使えるアプリとして一般利用者からの評価も得ています。開発、実装だけでなく、実際の活用まで進めることで、卒業研究としてもレベルの高い成果となっています。

特別授業で行った、Scratchによるノーコードの初心者向けプログラミングとは対照的なストロングスタイルの開発内容として、高校生にもソフトウェア開発の幅広さに触れてもらうことができました。



【大湊高校×青森大学ソフトウェア情報学部 交流会 2023】

2022年度に続けて、大湊高校とソフトウェア情報学部による交流会 2023 を開催しました。

2023年2月17日(金)の午後、大湊高校のコンピュータ教室を会場に交流会が開催され、大湊高校の1年生10名と2年生24名が参加してくれました。青森大学からはソフトウェア情報学部の教員と学生、むつキャンパスのスタッフが現地に参加し、さらに青森キャンパスの各研究室からZoomによるリモートでソフトウェア情報学部の教員と学生が多数参加しました。



○第一部 研究紹介

ソフトウェア情報学部3、4年生による研究紹介を行いました。各研究室から代表の学生が卒業研究や創作ゼミナールで今年度取り組んだ研究の成果を発表しました。

藤澤研究室所属4年生「手軽な2Dアバターの作成」

江口研究室所属4年生「2022年日本国内音楽人気ランキング」

坂井研究室所属3年生「画像処理AIを用いた自動走行」

鈴木研究室所属4年生「太陽系の楕円軌道」

黒田研究室所属4年生「8足歩行生物(クモ・タコ)の歩容解析」

大島研究室所属4年生「好みを考慮した青森観光ランキング」

穴田研究室 穴田教授「ベイズ推定による嗜好の分析」

○第二部 授業紹介

むつキャンパス所属のソフトウェア情報学部の1年生3名が「プログラミング演習」の授業で制作したプロジェクションマッピングのプログラムと作品紹介を行いました。動画を駆使した発表資料でプロジェクションマッピングの仕組みをわかりやすく説明しました。

○第三部 授業体験

ノーコードのアプリケーション開発環境 Adalo を用いて、高校生にスマホアプリ開発を体験してもらいました。角田研究室所属の4年生が講師を務め、むつキャンパス所属の1年生が高校生の作業をサポートしました。

参加した高校生からは JamBoard (オンライン付箋紙) を使って意見や感想をたくさんいただきました。

【情報処理学会全国大会でソフトウェア情報学部4年生が研究発表】

2023年3月2日(木)から4日(土)にかけて東京電気通信大学で開催された情報処理学会第85回全国大会でソフトウェア情報学部4年生1名が研究発表を行いました。

今年度の全国大会は現地参加とオンライン参加のハイブリッド形式で開催されました。発表した学生は現地で参加し、卒業研究で取り組んだプログラミング教育の研究成果を報告しました。

「高等学校情報Iにおけるプログラミング授業モデル」

青森大学ソフトウェア情報学部 角田研究室

今回の研究では高等学校の教科「情報I」で実施されるプログラミング授業の改善に取り組み、自分で作成した指導計画をもとに高校での教育実習で授業を実施、定期試験やアンケートを用いて効果測定を行いました。また通常の言語ベースのコーディングス





タイトルに加えてゲームベースの指導案も作成、対象者を2グループに分けて比較検証も行うことで、提案した指導案の効果を実証しました。

教育実習先の高等学校の協力を得ることで大規模な実証実験を実施、データにもとづいた検証を実現したことで、レベルの高い研究成果を示すことができました。発表では会場やオンラインの参加者・研究者から多くの質問や意見が出され、活発な意見交換が行われました。

【オープンデータデイ 2023 in あおもり開催】

2023年3月5日(日)に世界同日開催イベント「オープンデータデイ 2023」が開催され、あおもり会場ではオンラインで高校生・大学生・社会人による共創ワークを実施しました。

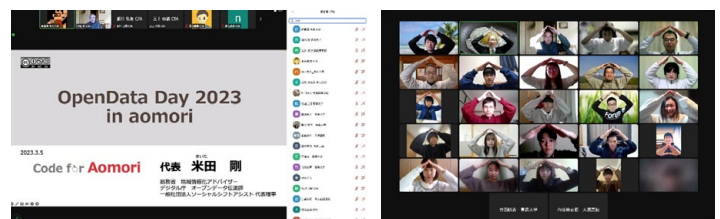
「オープンデータ」とは行政や企業がもつデータを広く公開することで新たな価値が創造されるという考え方で、世界中のさまざまな分野で有益なデータを共有する取り組みが進められています。このオープンデータの活動を世界中でお祝いする「オープンデータデイ」が2013年から毎年3月最初の週末に開催され、青森県でも青森大学を中心に毎年地域の高校生・大学生・社会人が集ってイベントを開催しています。

今年度は地域のITエンジニアを中心とするプロボノ(※)団体Code for Aomoriとの共催(2019年から4年連続)で、オンラインによる開催となりました。今回は「感謝のDX」をテーマに、NFT(※)の技術を用いて目に見えない「感謝」の気持ちをITで可視化するアイデアソンを実施、高校生7名、大学生11名、社会人9名が5つのグループに分かれて共創ワークを行いました。

※プロボノ(Pro Bono Publico)…様々な分野の専門家が自らのスキルを活かして社会に貢献する活動

※NFT…ビットコインなどの仮想通貨にも用いられているブロックチェーンの仕組みを使った電子証明書

イベントの最後には主催者であるCode for Aomoriから感謝状のNFTを発行、参加者の皆さんに仮想通貨用ウォレットを使って贈呈しました。

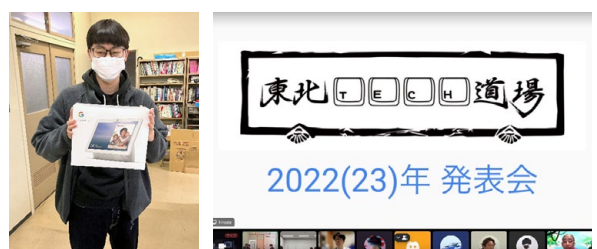


【東北TECH道場成果発表会でソフトウェア情報学部4年生が最優秀賞を受賞】

2022年度東北TECH道場開発成果発表会で最優秀賞を受賞したソフトウェア情報学部4年生に、東北TECH道場とグーグル合同会社から賞品が贈呈されました。

東北TECH道場はGoogle社による震災復興事業として2011年に石巻道場からスタート、東北地区で活動するITエンジニアとITエンジニアを目指す大学生・高校生のための開発者コミュニティとして、現在では東北6県で13箇所の道場が活動しています。2023年2月25日(土)に開催された2022年度の成果発表会では、オンラインで繋いだ各道場の道場生から今年度の開発成果が報告されました。青森道場からはソフトウェア情報学部4年生が独自に開発したAndroidアプリ「青森トイレマップ」の成果を報告しました。GoogleマップやFirebaseなどのオンラインサービスをマッシュアップしたシステムで、Google Playストアからダウンロードして利用可能にしています。アプリとしての完成度の高さや技術力が評価され、参加者による投票により最優秀賞(東北TECH道場賞)に選ばれました。

受賞者にはGoogle社から副賞として、Google製スマートスピーカーの最上位機種Nest Hub MaxとGoogle謹製Tシャツ・靴下セットが贈呈されました。高校生の頃から青森道場に参加していた学生は春から県外のIT企業に就職が決まっており、道場としても大変良い卒業記念となりました。



学部所属教員の①「著書・論文等」と②「社会活動・地域貢献・講演・発表等」の一覧

【著書、論文等】

■穴田 啓晃

1. Anada, H., Fukumitsu, M., Hasegawa, S. (2022) Group Signatures with Designated Traceability over Openers' Attributes. *International Journal of Networking and Computing*, Vol.12(2), pp.493-508
2. Anada, H., Fukumitsu, M., Hasegawa, S. (2022) Dynamic Group Signatures with Message Dependent Opening and Non-Interactive Signing. *The Tenth International Symposium on Computing and Networking, CANDAR 2022*, pp.76-82
3. Anzai, K., Fukumitsu, M., Anada, H., Hasegawa, S. (2022) Group Signatures with Equality Test on Signers. *The Ninth International Workshop on Information and Communication Security, WICS2022 (Co-held with CANDAR 2022)*, pp.276-282
4. Anada, H., Anzai, K., Fukumitsu, M. (2022) Attribute-Based Signatures of Fiat-Shamir Type in Bilinear Groups: Scheme and Performance. *The 2022 International Workshop on Future Security and Privacy, FSP2022 (Co-held with PlatCon 2022)*, pp.1-6
5. Anada, H., Fukumitsu, M., Hasegawa, S. (2022) Group Signatures with Designated Traceability over Openers' Attributes in Bilinear Groups. *Information Security Applications - 23rd International Conference, WISA 2022*, pp.29-43

■大島 和裕

1. Abe, K., Oshima, J.H., Chiang, H., Suwa, S., Hisamatsu: VARIATION IN RADIATION DOSE RATES FROM RADIONUCLIDES DISCHARGED BY THE SPENT NUCLEAR FUEL REPROCESSING PLANT IN ROKKASHO UNDER DIFFERENT YEARLY WEATHER CONDITIONS. *Radiation Protection Dosimetry*, Volume 198, Issue 13-15, 2022.

■小野 淳平

1. Ono, J., Kawai, M. and Ogata, T. (2022). Consideration of Unchiku Generation with Moving Illustration Using Kabuki Dance Knowledge. *Journal of Artificial Life, Networks and Robotics*, 9(1), 1-12. DOI: 10.57417/jrnal.9.1_1 [Indexed: Scopus, ESCI]
2. Ogata, T. and Ono, J. (2022). Implementing the Story Units of Japanese Folktales by Using a Verb Conceptual Dictionary. *Journal of Artificial Life, Networks and Robotics*, 9(12), 99-114. DOI: 10.57417/jrnal.9.2_99 [Indexed: Scopus, ESCI]

■角田 均

1. 角田均・三上一, "水辺のすこやかさ指標プラットフォーム Web アプリの開発", *日本水環境学会誌* 2023年2月号特集企画 (2023/02)

【社会活動・地域貢献・講演・発表等】

■小野 淳平

1. Ono, J. and Ogata, T., Considering the story generation method using coloring techniques included in a story, *The 2022 World Congress in Computer Science, Computer Engineering, & Applied Computing* (Jul. 25-28, 2022, Las Vegas, Online)
2. Ono, J. and Ogata, T., Development of a narrative generation robot using the coloring methods based on story techniques included in a story, Presented at *7th International Congress on Love & Sex with Robots (LSR2022)* (Nov. 18-20, 2022, Online).
3. Ogata, T. and Ono, J., Approach to a narrative robot based on the narrative transformation through

cultural love & sex knowledge. The 7th International Congress on Love & Sex with Robots (LSR2022) (Nov. 18-20, 2022, Online).

4. Ono, J. and Ogata, T., Designing a narrative generation game based on the Russian Invasion of Ukraine, The 2023 International Conference on Artificial Life and Robotics (ICAROB2023) (Feb. 12, 2023, Online).
5. 熊谷元輝, 小野淳平, 小方孝, 昔話の型に基づくストーリーユニットと概念辞書の結合, 日本認知科学会第39回大会, 2022年9月8日~10日, オンライン.
6. 小野淳平, 小方孝, 統合物語生成システムにおける利用に向けた修飾概念辞書の構造の検討, 日本認知科学会第39回大会, 2022年9月8日~10日, オンライン.
7. 工藤舜太, 小野淳平, 小方孝, 道成寺物再現システムと説明/蘊蓄生成機構の統合, 日本認知科学会第39回大会, 2022年9月8日~10日, オンライン.
8. 小野淳平, 小方孝, ウクライナ戦争を題材とした物語生成ゲームの構想, 人工知能学会第二種研究会 第69回ことば工学研究会, 2022年9月30日~10月1日, 東京.
9. 阿部凌大, 小野淳平, 小方孝, テレビの報道・解説番組からの言語データに基づくロシア・ウクライナ戦争に関する概念の獲得と文章生成, 人工知能学会第二種研究会 第71回ことば工学研究会, 2023年3月17日~18日, 東京.
10. ワークショップ企画

OS28 Is That Narratology 'Post'? -Computational and Cognitive Approaches and Beyond. In the 2023 International Conference on Artificial Life and Robotics (ICAROB2023). Jumpei Ono (Aomori University, Japan), Hiroki Fxyma (Tainan University of Technology, Taiwan (ROC)), Yuki Hayashi (Chiba University / NINJAL, Japan), Takashi Ogata (Iwate Prefectural University, Japan)

■大島和裕

1. 大島和裕, 立花義裕, 小松謙介, オホーツク海への淡水供給と海水変動の関係, 日本気象学会 2022 年度秋季大会, 2022 年 11 月.
2. 田上雅浩, 中村哲, 大島和裕, 一柳錦平, 朴昊澤, 北極海の海水後退と大気水循環との関係, 日本気象学会 2022 年度秋季大会, 2022 年 11 月.
3. Oshima, K., Y. Tachibana and K. Komatsu, Freshwater budget of the Sea of Okhotsk and sea ice variability, The Seventh International Symposium on Arctic Research (ISAR-7), March 2023.
4. Tanoue, M., T. Nakamura, K. Oshima, K. Ichiyangi, H. Park, Arctic sea ice retreat does not enhance atmospheric hydrological cycle, The Seventh International Symposium on Arctic Research (ISAR-7), March 2023.

■黒田 茂

1. 黒田茂, 内田就也, 中垣俊之 (2022) " 脚波の方向逆転を伴うセシリアカムカデの歩容遷移について ", 日本動物学会 第 93 回大会 2022 (令和 4 年 9 月 10 日)

■角田 均

1. 角田均, データの分析と処理~科学研究に必要な統計学, 弘前南高校 SSH クラス特別授業, 2022/07/07
2. 角田均, 水環境活動 / 水環境学習における IT の活用~可視化・保存・共有~, 日本水環境学会東北支部セミナー, 2022/11/26
3. 角田均, デジタルマーケティングの基礎, 弘前実業高校情報処理科特別授業, 2022/12/15
4. 四戸洸大, 角田均, " 高等学校情報Iにおけるプログラミング授業モデル ", 情報処理学会第85回全国大会 (東京電通大), 2023/03/02

【競争的資金】

■大島 和裕

1. 大島和裕, 科学研究費補助金 基盤研究 (C), 「オホーツク海の海水生成を促進する淡水供給起源の新パラダイム」, 20K12197, 2020 ~ 2023 年度

薬学部

「2022年を振り返って」

薬学部部長 水野 憲一



2022年度は、学科長、薬学教育センター長が一新し、新生薬学部として稼働しました。その中で、薬学教育センターの活動は今年度特に活発でした。センター通信の発行、薬剤師国家試験を控え、不安になっている6年生対象のサロン開設など新しい試みを行なっています。5月には、念願の薬学教育センター専任非常勤職員が採用となりました。来年度は、薬学生にも別地キャンパスを体験してもらうために、薬学教育センター主催のスタートアップキャンプをむつキャンパスで開催します。新型コロナウイルス感染症が引き続き懸念される中で、昨年度は5月に延期になった白衣授与式も、例年通り1月終わりに実施できました。また、学生募集においては厳しい状況ではありますが、大館市中高生薬剤師体験セミナー、青森県薬剤師体験セミナー、高校生科学研究コンテストなどの学生募集につながるイベントも対面で行うことができました。今後も薬学部教員及は一丸となって、より一層薬剤師育成に向けた教育に邁進して参ります。

【令和4年度 実務実習発表会の開催】

令和4年度の実務実習発表会を、2022年8月19日(金)、2022年11月17日(木)、2023年3月3日(金)の3回開催しました。

実務実習発表会は、薬学部5年生が薬局と病院において、それぞれ11週間、調剤や服薬指導など参加・体験型の臨床教育を受けます。本学では、青森県をはじめとする多くの保険薬局や病院の協力のもと実務実習を行っています。実務実習終了後は、大学において成果報告を行い、情報共有をしています。



学生達は、実習施設の薬剤師の先生方や担任のアドバイスを受け、各自が学んできた内容を報告しました。

2022年8月19日(金)の第1回発表会は新型コロナウイルス感染症「第7波」のため、発表者と5年生以外はZoom配信のみの参加としましたが、学生は60名超が参加し、青森大学薬学部教員は21名、指導薬剤師の先生方が5名参加されました。

2022年11月17日(木)の第2回発表会は、遠距離の実習施設様向けと新型コロナウイルス感染症への対策から、発表者と5年生以外ではできるだけZoom配信での参加としましたが、学生は60名超(オンライン32名、オフライン30名超)が参加、薬学部教員は24名(オンライン17名、オフライン7名)、指導薬剤師の先生方が19名(オンライン17名、オフライン2名)参加されました。

2023年3月3日(金)の第3回発表会は、新型コロナウイルス感染症への対策から、発表者と5年生以外ではできるだけZoom配信での参加としましたが、学生は27名が参加、薬学部教員は25名、指導薬剤師の先生方は6名が参加されました。

指導薬剤師の先生方や本学教員も多数出席する中で行われましたが、薬局と病院で経験を積んだだけあって、堂々とした発表態度に成長が感じられました。

【日本薬学会142年会(名古屋) 学生優秀発表賞の受賞】

2022年4月22日(金)に2022年3月25日(金)～28日(月)、オンライン開催された日本薬学会第142年会(名古屋)にて、青森大学薬学部の学部生が学生優秀発表賞を受賞しました。

この賞は当大会での学生による一般学術発表の中から審査され、優秀な発表者に贈られるものです。

○日本薬学会第142回 学生優秀発表賞(ポスター発表の部)

受賞演題：多剤耐性を獲得した転移性口腔がんのナフトキノンをを用いたネクロプトーシス誘導メカニズムの
解明

指導教員：大越教授

日本薬学会第 142 年会 HP ■学生優秀発表賞の受賞者

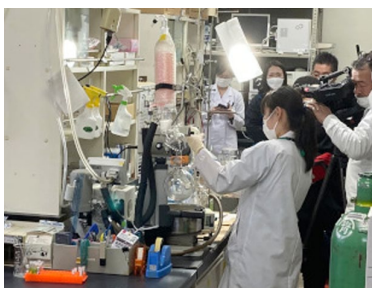
<https://confit.atlas.jp/guide/event/pharm142/static/prize>

多剤耐性を獲得した転移性口腔がんのナフトキノンをを用いたネクロプトーシス誘導メカニズムの解明は青森大学薬学部長 水野教授、朝日大学歯学部、防衛医科大学校 防衛医学研究センターとの共同研究によるもので、青森県に生育する植物の成分を用いて多剤耐性、転移性の難治がんの克服を目指した研究です。

多剤耐性を獲得した転移性口腔がんのナフトキノンをを用いたネクロプトーシス誘導メカニズムの解明は、日本学術振興会 科学研究費助成事業「基盤研究 B (20H03785)」、
「基盤研究 C (20K09947)」の支援を受けて実施しました。



【青森テレビで青森大学薬学部の SDGs 活動紹介】



2022年5月4日(水)の17:21頃から、ATV 青森テレビの情報番組「わっち!!」内において、青森大学薬学部の SDGs 活動が紹介されました。

これは、TBS 系列による SDGs Week の一環として放送されました。

青森大学薬学部の学生3名(6年生1名、5年生1名、2年生1名)と卒業生1名、大越教授と水野薬学部長が出演しました。

自然の素材を用いて、青森県ならではの商品の提案を学生達と、そして地域の人たちと一緒に発信していきます。

持続可能な形で、薬学部から学生と一緒にものづくりを通し、SDGs Goal17「パートナーシップで目標を達成しよう」を目指します。

青森大学薬学部は SDGs の取組を通して地域社会に貢献いたします。

YouTube の「ATV 青森テレビ 公式チャンネル」で公開されました。(2022/5/17 追記)

<https://www.youtube.com/watch?v=rXuotgc6bVM>

【令和 3 年度白衣授与式の挙行】

2022年5月10日(火)、記念ホールにおいて「令和3年度 青森大学 薬学部 白衣授与式」が挙行されました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和4年2月の挙行を延期しておりましたが、この度、新型コロナウイルス感染症対策を万全にし、対面およびオンラインの参加方法で実施いたしました。

白衣授与式は、実務実習で使用する白衣と名札を授与することで、実務実習へ旅立つ学生に Student Pharmacist としての誇りを持ち実習に取り組むための機会として令和2年度より実施しています。



【2022 年度 薬用植物園の見学】

2022年6月11日(土)、薬学部1年生の授業「薬学概論 I」の1コマとして、青森市農林水産部農業振興センター内の「薬用植物園・ハーブ園・薬木園」にて学外学習を実施しました。

各学部の主な活動



この施設は、青森市出身の日本の薬学界のパイオニアであり元東大薬学部長であった故 石館守三（1901年1月24日－1996年7月18日）が監修された、県内でも有数の薬用植物園です。薬用植物園の約1ヘクタールの園内に、薬草200種、薬木70種、水生薬用植物10種を展示栽培しています。また、ハーブ園では、面積約7アールの園内にラベンダー、タイム、ミント、セージなど約110種類のハーブを展示栽培しています。

天気予報では降水確率30%の曇天でしたが、雨も降らず過ごしやすい植物観察日よりでした。

教職員9名が引率し、学生は教員の説明に熱心に耳を傾け、質問をしている光景もありました。

学生自身が興味・関心のある植物を見つけて、それぞれ写真撮影や薬効などメモを取っている様子が印象的でした。

この見学で学生は、写真を使った講義課題を提出します。

この体験見学を通して学生が薬用植物に興味を持ち、今後の関係教科の勉学の励みになることを期待します。

【薬学部同窓会誌〈創刊号〉を発行】

薬学部同窓会は2009年に設立、2013年から毎年のように同窓会を開催してきました。

しかしながら、2020年度からは新型コロナウイルス感染症の影響により、開催出来なくなっておりました。

そこで、薬学部同窓会員の皆さまに情報提供のため、『青森大学薬学部同窓会誌』の〈創刊号〉を発行しWeb上に掲載いたしました。

次のリンクから閲覧ください。よろしくお願いたします。

■青森大学薬学部同窓会誌〈創刊号〉

https://www.aomori-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2019/03/aufp_alumni_bulletin_no1b.pdf

■薬学部同窓会ページ

<https://www.aomori-u.ac.jp/%e8%96%ac%e5%ad%a6%e9%83%a8%e5%90%8c%e7%aa%93%e4%bc%9a/>



【大館市中高生薬剤師体験セミナーの開催】

2022年7月30日（土）、本学におきまして「大館市中高生薬剤師体験セミナー」が行われました。

大館市と青森大学との共催によるこのセミナーは、2022年で9回目開催となります。

中高生計23名が参加し、学生や教員の指導のもと、薬学に関する実験や、薬剤師業務にかかわる体験プログラム、そして大館市で働く薬剤師の方々との座談会などのプログラムが行われました。プログラムの最後には修了証書を手渡し、解散となりました。

中高生にとっては将来の職業選択の参考に、本学の学生にとっては、生徒への指導を通して多くの気づきがあったことと思います。





【環境活動ネットワーク交流会 2022 で薬学生が発表】

2022年8月24日(水)青森県主催の令和4年度「環境活動ネットワーク交流会2022」で、薬学部の学生2名がSDGs活動報告を行いました。

これは、大学によるSDGsの考え方等を取り入れた環境人財育成事業取組報告・意見交換会です。

青森県内の高校生や、企業、NPO法人、市役所などが参加し、環境活動について討論を行いました。

青森大学薬学部のSDGs活動は、学ぶことを通し、豊かな「青森県」の持続可能な開発を迫ります。

青森大学の他には、弘前大学や八戸工業大学、弘前中央高等学校が報告・発表しました。

この会の模様は、ABA青森朝日放送により2022年8月25日(木)11時42分からの「ABAニュース」内において紹介されました。



【令和4(2022)年度青森県中高生の薬剤師体験セミナーの開催】

2022年8月27日(土)・28日(日)、青森大学と青森県教育委員会の共催による「青森県中高生の薬剤師体験セミナー」が開催されました。より多くの参加者を受け入れるため、午前の部と午後の部にわけ、2日間の開催としています。

1日目午前の部は中学生17名・高校生20名、午後の部は中学生19名・高校生18名、2日目午前の部は中学生16名・高校生19名、午後の部は中学生17名・高校生20名が参加し、薬剤師の仕事を経験しました。参加した中学生・高校生の皆さんの薬剤師に対する興味・関心がさらに深まったかと思います。

今回は青森大学薬学部出身で青森県の病院薬剤師1名、薬局薬剤師2名にご協力をいただきました。それぞれの仕事の内容をわかりやすく説明して下さり、中学生、高校生からの様々な質問にとっても丁寧に答えて下さいました。

また、本学薬学部の在学生(6年生6名、5年生5名、4年生8名)が学生アシスタントとして実験を手伝ったり、座談会に参加したりして、中学生や高校生の質問に答えていました。



各学部の主な活動

○中学生の部

〔プログラム〕（午前、午後とも同じ）

1. 開講式
2. 安全講習
3. 化学物質の成分分析体験（2022年8月27日（土）：ペーパークロマトグラフィー、2022年8月28日（日）：カフェインの抽出）
4. 現役薬剤師との座談会「薬剤師の仕事ってどんなもの？」
5. 修了式



○高校生の部

〔プログラム〕（午前、午後とも同じ）

1. 開講式
2. 安全講習
3. 現役薬剤師との座談会「薬剤師の仕事ってどんなもの？」
4. 調剤体験「医薬品の反応と薬剤師業務」
5. 修了式

このセミナーの様子は、青森テレビ（ATV）2022年8月27日（土）7:30～18:00、報道特集内「わっちニュース」において紹介されました。

主催：青森大学、青森県教育委員会

協賛：青森県

後援：日本薬学会東北支部、青森県薬剤師会、青森市薬剤師会、青森県病院薬剤師会

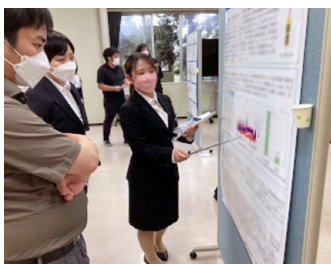
【令和4年度薬学部卒業研究発表会の実施】

2022年9月2日（金）、令和4年度薬学部卒業研究発表会を実施しました。

青森大学薬学部生は4年次から6年次の3年間、授業や試験、実習を行う傍ら、新たな発見を目指して卒業研究に取り組みます。卒業研究は薬剤師として必要な資質である、「問題発見・解決能力」、「情報収集・分析能力」、「コミュニケーション・プレゼンテーション能力」を育む、非常に重要なカリキュラムの一つです。その集大成として、本発表会にてポスターによる発表を行いました。

薬学部卒業研究発表会は、高大連携の一環として、青森山田高等学校の生徒57名が参加し行われました。生徒には「総合的な探求の時間」の一部とし発表に参加してもらい、質問カードを配布し、気になる発表には質問カードを大学生に渡して、それに対して大

学生が高校生に答えるという、「思考力・判断力・表現力」の模範を大学生から学習（高大連携プログラム）す



ることを狙いました。

決められた時間内に自らが行った研究の意味や価値、内容を教員、学生の方々にプレゼンテーションした後、様々な質問に対して調べ上げた知識を以て活発なディスカッションが行われました。長期間にわたる卒業研究の締めくくりの一つとして、盛況のうちにつつがなく終了しました。

これから6年生は卒業論文の提出や卒業試験、国家試験に向けてあわただしい日々を過ごします。

コロナ禍において、先行き不透明な状況ではありますが引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。
〔新型コロナウイルス感染症への対応〕

- ・4つの教室を使用し、人を分散した
- ・パネル同士の間隔を空けた
- ・それぞれの教室へはアルコール消毒液を置いた
- ・教室へ入室する方はすべてマスク着用した

【令和4年度 産学官・高大連携事業 平内町夜越山森林公園ツバキ果実採集】

2022年9月17日(土)、新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、平内町夜越山森林公園にて、平内町の許可を得てツバキの果実採取を行いました。

これは、平内町×青森大学の包括的連携協定と、青森大学×SDGs「北東北の特色ある天然素材を用いたESD教材の開発」の教育研究に基づいたプロジェクトから始まり、産学官・高大連携へと発展しました。

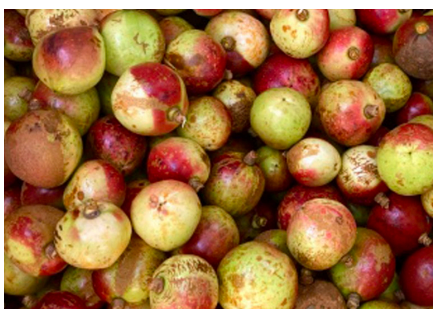
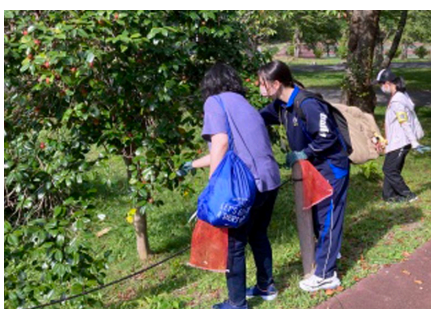
青森大学薬学部からは教員3名・大学生2名・卒業生(総合研究所 研究員)1名が、ツバキ果実の採集と、裂果および種子の成熟過程を調査しました。

そして高大連携として、青森山田中学・高等学校からは教諭1名・高校生9名、青森明の星中学・高等学校からは教諭1名・高校生1名が参加しました。

また、地域の植物に由来した製品を開発販売している青森市の企業から1名参加されました。

ツバキ果実採集後に、平内町のご厚意で、園内で植栽している貴重な植物について、詳しい説明を受けながら見学をしました。身近な地域資源の価値を深く考える、良い機会が得られました。

皆様のご参加お待ちしております。



【2022 薬用植物フォトコンテストの表彰】

青森大学薬学部の1年生の科目「薬学概論I」における青森市立薬用植物園・ハーブ園の見学を、より良いものにするために実施した2022薬用植物フォトコンテストの受賞者が決定しました。今回は写真だけでなく川柳も考えてもらうことで、ヒューマニズム教育に資する事を目的として実施しました。

この2022薬用植物フォトコンテストは、新たな試みとしてSNSであるInstagramを利用して2022年8月31日(水)までの投票期限で開催しました。

2022年10月17日(月)、水野薬学部長からの表彰と副賞(QUOカード)を贈りました。

【最優秀賞】パンダさん



川柳..ボタン科の
きれいなピンクで
鎮痛だ

【優秀賞】yumikanさん



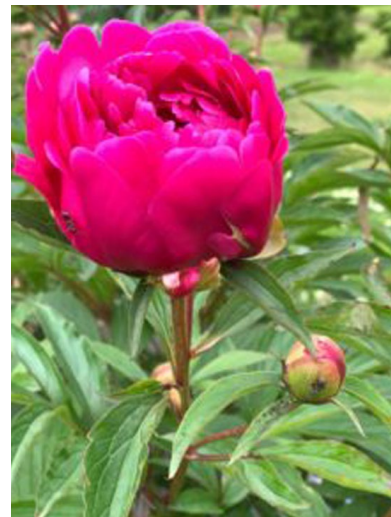
川柳..人のため
花を育てる
働きバチ

【奨励賞】Nii.さん



川柳..一面に
広がるチャイブ
綺麗だな

【特別賞(川柳賞)】メロンパンさん



川柳..艶(つや)やかな
花びらたずさえ
照り映える

写真や川柳は力作ぞろいで、薬学部1年生全員の薬用植物に対する思いが感じられる作品ばかりでした。投票して頂きました皆さま、ありがとうございました。このコンテストは今後も開催していく予定です。

【青森県の広報誌で薬学部の取り組み紹介】

青森県エネルギー広報誌『原子力だより AE』vol.152の特集「青森県量子科学センター」において、青森大学薬学部の取り組みが紹介されました。

これは、素材の分析に青森県量子科学センターのPIXE分析装置を使い、分析結果を参考にした「ものづくり」や、「ものづくり」そのものを組み込んだ体験学習用の教材を開発した事を紹介したものです。

「ものづくり」試作品の技術提供や、「ものづくり」そのものを組み込んだ学習教材の試験的運用は、地元の高校生の参加と協働により行っています。地方の魅力ある学びの場を創生するとともに、地域が活きる「ものづくり」に貢献していきます。

※ PIXE 分析装置

陽子ビームを試料に照射すると試料からX線が放出されます。このX線を測定することで微量元素を定量分析することができる装置です。

原子力広報誌『原子力だより AE』は、次のリンクから見ることができます。

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/energy/g-richi/kouhou.html>

青森県の特徴ある天然素材を用いた「ものづくり」の取組

青森大学 薬学部

青森大学では、青森県の特徴ある天然資源に着目し、地方創生につながる「ものづくり」を意識した素材研究に取り組んでいます。

素材の分析に青森県量子科学センターの装置を用い、分析結果を参考にした「ものづくり」や、「ものづくり」そのものを組み込んだ体験学習用の教材を開発しています。探求を通じ、豊かな「青森県」の持続可能な開発を目指しています。



高校生と市内町夜廻山森林公園の樟葉葉を採取

結果・活用事例

白樺は、北方樹木の気候変動への適応を考える上で優れたモデル系として知られています。PIXE分析装置を使った成分分析により、白樺の樹液は流出時期によるミネラルの変動とともに甘味に差があることがわかりました。

また、日本の伝統色(濃色:こきいろ)でもある十和田ムラサキの根(生薬:紫根)の色素は、樟油に溶出するミネラルが色素の濃さに関わる可能性を見出しました。

これらの結果を基に「ものづくり」試作品として作製した「リップバーム」の技術提供や、「ものづくり」そのものを組み込んだ学習教材の試験的運用を行っています。この取組は、地元の高校生の参加と協働により行われており、地方の魅力ある学びの場を創生するとともに、地域が活きる「ものづくり」に大きく貢献しています。



白樺樹液の採取



ものづくり試作品(樟油や十和田ムラサキの根など植物の色素を使ったリップバーム)

利用設備

- ◎サイクロトロン加速器
- ◎PIXE分析装置[®]

提供提供: 青森大学 薬学部

【青森県の地域素材を用いた開発教材の試験運用】

青森大学薬学部は、青森県の特徴ある素材を利用し、SDGsに基づく理科教材の開発を行っています。(SDGs - 3, 4, 9, 11, 12, 15)

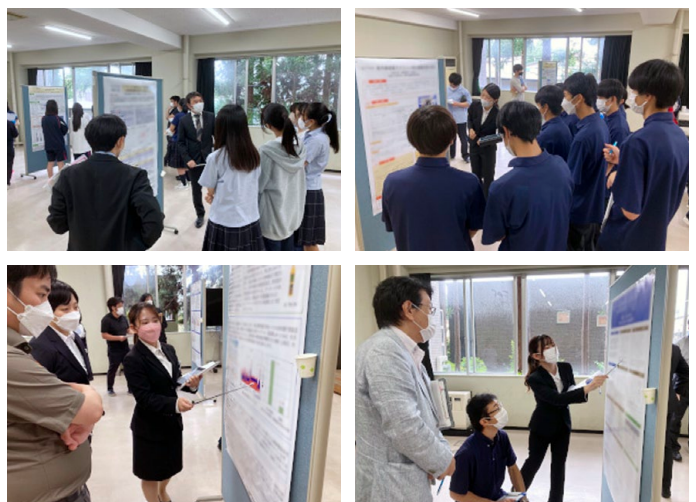
2022年11月26日(土)青森県の地域素材を用いた開発教材の試験運用を行いました。

高大連携の取組を通じて、薬学生3名と薬学部卒業生1名の協力の元、青森明の星中学・高等学校の依頼を受けて高校生6名と中学生2名を対象に実施したものです。

参加した生徒は、目をキラキラさせ楽しそうに体験していました。

この取り組みは、「青森県 R4 年度大学によるSDGsの考え方等を取り入れた環境人財育成事業」の助成で実施いたしました。

青森大学薬学部は、持続可能な開発目標(SDGs)を推進しています。



【令和5年度実務実習システム説明会の開催】

2022年12月10日(土)、令和5年度実務実習システム説明会を開催いたしました。

青森大学薬学部における5年次の実務実習では、富士フィルムシステムサービス株式会社の実務実習指導・管理システムを利用しています。このシステムを導入することにより、実習の効率化及び可視化が図られていますが、年々改良されるため説明会を毎年開催しています。



このシステムを利用した実務実習の進め方に関する説明会を、学生向けと指導薬剤師・教員向けの二部構成で実施しました。

2022年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対応のためZoomで配信となりましたが、富士フィルムシステムサービス株式会社の方々に説明を頂きまして、より実務実習指導・管理システムを理解することができました。

【令和4年度白衣授与式の挙行】

2023年1月31日(火)、新型コロナウイルス感染症対策を万全にした上で記念ホールにおいて対面で令和4年度青森大学薬学部白衣授与式を挙行了しました。

白衣授与式は、実務実習で使用する白衣と名札を授与することで、実務実習に臨む学生に Student Pharmacist としての誇りを持ち実習に取り組むための機会として令和2年度より実施しています。

また、この式典は2023年1月31日(火)18:15からのスーパーJチャンネルABA (ABA青森朝日放送)にて放送されました。



【武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園を訪問】

2023年2月24日(金)青森大学SDGs活動の一環で、薬学部の大越教授と社会学部の藤教授が武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園を訪問しました。

京都薬用植物園で取り組んでいる環境保全や、人材育成の活動についてお話を伺いました。

園内では、歴史的な文化財を活用した生薬展示室や、薬用植物の育種、地域の固有種・絶滅危惧種の保全活動などを目にするすることができます。

薬学を修める学生にとって、多方面から学べる素晴らしい場所です。

次の機会は、学生と一緒に訪問したいと考えております。

快く迎えていただきました京都薬用植物園の皆様、ありがとうございました。



園内で開花したサトイモ科の希少種 ショクダイオオコンニャクのさく葉標本の実物。

生薬の標本などを展示、公開、におい・味を体験。移築再生された展示棟 (住友財閥旧田辺邸) 内

【薬学部学生が「第3回卒業研究SDGs研究センター賞」を受賞】

2023年3月10日(金)学位記授与式後に「第3回卒業研究SDGs研究センター賞」の授与式が行われ、日本薬学会第142年会 学生優秀発表賞を受賞した薬学部の学生が第3回卒業研究SDGs研究センター賞において優秀賞を受賞いたしました。



この賞は、青森大学SDGs研究センターが学内から広く募り、応募された卒業研究論文をそれぞれ3名のセンター員が審査する事で入賞を決めたものです。

今年度の受賞者は、最優秀賞は総合経営学部佐々木研究室の1名、優秀賞は薬学部大越研究室の1名と社会学部櫛引研究室の1名の2名、佳作は社会学部櫛引研究室の2名でした。

【日本薬学会第143年会(札幌)への参加】

2023年3月25日(土)から2023年3月28日(火)まで日本薬学会第143年会(札幌)が北海道大学(札幌キャンパス)に於いて開催されました。

COVID-19感染が落ち着いてきた事から4年ぶりに対面開催となりました。

青森大学薬学部からは、学生2名、研究員1名、教員2名が筆頭で発表しました。

次回の日本薬学会第144年会(横浜)は、2024年3月28日(木)から3月31日(日)まで、パシフィコ横浜に於いて開催されます。



【出張講義などの実施状況】

■水野 憲一

【出張講義】

2022年8月19日 筒井中学校職業講話

【進路ガイダンス】

2022年6月16日 五所川原第一高等学校進路ガイダンス

9月28日 秋田令和高等学校進路ガイダンス

9月29日 青森中央高等学校進路ガイダンス

10月20日 函館遺愛女子高等学校進路ガイダンス

11月17日 十和田工業高等学校進路ガイダンス

2023年2月2日 弘前工業高等学校進路ガイダンス

■大越 絵実加

【イベント】

- [高大連携] 高校生科学研究コンテスト(青森県内、函館市 高校生142名)(2022年12月11日(日)共催: 青森県教育委員会) 対面開催 発表審査員
- [高大連携] 青大SDGs(薬)「ものづくり」体験型理科教材[ツバキ油リップバーム作り] 試験運用の実施
2022年11月26日(土) 高校生6名・中学生2名(青森明の星中学・高等学校、小野寺彩子高校教諭)
- [産学官連携] 青大SDGs(薬) 平内町椿プロジェクト: 高校生[総合的な探求の時間]と椿果実採集
2022年9月17日(土)(青森山田高等学校10名、青森明の星高等学校2名(各高校教諭含む)、薬学部生2名、大学教員2名、卒業生(総合研究所 研究員)1名、平内町関係者4名、青森県内企業1名) 共催: 平内町、
採集場所: 夜越山森林公園内
- [大学広報] 青森県の地方テレビ局(青森テレビ: ATV) 取材依頼(ATV わっち!! 2022年5月4日放送)

各学部の主な活動

ATV 公式チャンネル You tube 「青森大学 薬学部」白樺の可能性 - 身近にある自然の恵みを継続的にかつ最大限に活用 <https://youtu.be/rXuotgc6bVM>

5. [小中連携理科教育] 青大SDGs (薬)「ものづくり」体験型理科教材 [ツバキ油作り] 試験運用の実施
2023年1月21日(土)小学生3名(平内町種八農園、萩原夫妻、薬学部生2名、大学教員2名、卒業生(総合研究所 研究員)1名)

■川村 仁

【講演】

1. 2022年6月24日 令和4年度学校給食の衛生管理等に関する指導者講習会
2. 2022年7月4日 青森市立戸山中学校薬物乱用防止教室
3. 2022年7月28日 青森県新規採用栄養教諭・学校栄養職員研修
4. 2022年8月2日 学校給食調理従事員衛生管理講習会
5. 2022年8月4日 全国栄養教諭・学校栄養食品研究大会(大分県)
6. 2022年10月6日 青森県立青森高等学校薬物乱用防止教室
7. 2022年11月10日 青森県立青森東高等学校薬物乱用防止教室
8. 2022年11月24日 青森県中堅教諭等質向上前期・後期研修
9. 2022年11月25日 日本薬剤師会試験検査センター連絡協議会
10. 2022年12月5日 青森市立戸山西小学校薬物乱用防止教室
11. 2023年1月22日 杉並区学校薬剤師会研修会
12. 2023年1月23日 八戸市学校保健会研究大会
13. 2023年2月3日 青森市立金沢小学校薬物乱用防止教室
14. 2023年3月8日 青森県学校薬剤師会技術研修会
15. 2023年3月11日 福島県学校薬剤師研修会
16. 2023年3月16日 日本薬剤師会学校薬剤師全国担当者会議

■小松 一

【講演】

漢方と鍼灸～元気に年齢を重ねましょう、青森大学市民大学講座オープンカレッジ、2022.6.3

【ワークショップ】

七味唐辛子を作ってみよう、八戸市博物館ワークショップ 2022.4.29

■清水 保明

【出張講義】

1. 2022年8月31日：青森市中央市民センター・市民スクール、COVID-19の感染予防
2. 2022年9月14日：青森市民大学・中央校、よくわかる抗ウイルス薬の世界
3. 2022年9月15日：青森市民大学・北部校 おくわかる抗ウイルス薬の世界
4. 2022年10月14日：青森大学オープンカレッジ・市民大学講座、健康食品は本当に効くの？
5. 2022年10月20日：むつ市民大学講座、新型コロナウイルスワクチンの有効性と安全性
6. 2022年11月27日：黒石市・未来塾、健康食品って本当に効くの？薬と健康食品の違い。
7. 2022年11月28日：青森市油川市民センター・地域力アップ講座、COVID-19の感染予防
8. 2022年12月6日：青森市中央市民センター・生涯教育、COVID-19の感染予防
9. 2022年12月14日：青森市民大学・西部女性校、新型コロナウイルス感染症の感染予防

【依頼講演】

1. 2022年4月26日：つくば市薬剤師会・学術研修会、抗SARS-CoV-2薬の実力

2. 2022年 7月 8日：薬科大学事務局長会議、新型コロナウイルス感染症：現在・過去・未来
3. 2022年 9月 4日：東京薬科大学 卒後教育講座、抗 SARS-CoV-2 薬の実力
4. 2022年 11月 17日：青森県薬剤師会卸部会 継続研修会、抗 SARS-CoV-2 薬の 実力

【模擬授業】

2022年 9月 15日：青森県立青森東高等学校、健康食品って効くの？

【イベント】

2022年 11月 20日：あおもり健康寿命延伸フェア、新型コロナウイルス感染予防のウソ？ホント？

■福井 雅之

【出張講義】

1. 2022年 7月 26日：青森市民大学・大学院、大野市民センター、「体を守る仕組み」
2. 2022年 10月 11日：大学模擬講義、青森北高校、「体を守る仕組み～新型コロナウイルス感染症から学～」

■高橋 晃

【出張講義】

2022年 6月 10日：青森市民大学（沖館市民センター）、「成年後見制度について」

【報告論文】

■水野 憲一

Nojima Y, Toriyama M, Tago K, Mizuno N, Morishita K, Itoh H. GPR56 C-terminal fragment mediates signal received by N-terminal fragment of another adhesion GPCR Latrophilin1 in neurons. *Genes Cells*. 28, 83-96 (2023).

■大越 絵実加

1. Murakami K., Umemura N., Adachi M., Motoki M., Ohkoshi E., ABCG2, CD44 and SOX9 are increased with the acquisition of drug resistance and involved in cancer stem cell activities in head and neck squamous cell carcinoma cells., *Experimental and Therapeutic Medicine*, 24: 722 (2022) 査読有り
2. Wada K, Goto M, Ohkoshi E, Lee KH, Yamashita H., Bioactivity inspired C19-diterpenoid alkaloids for overcoming multidrug-resistant cancer., *Journal of natural medicines*, 76: 796-802 (2022) 査読有り
3. Ohkoshi E., Horimatsu S., Tada T, Hitomi K., Nogami M., Ishii K. Proton-induced X-ray emission analysis of white birch milk., *International Journal of PIXE*, 30, No. 03n04, 85-89 (2022) 査読有り

■小松 一

1. 木村 優弥、小松 一：根城薬草園の有効活用に関する研究（1）－屠蘇散作りワークショップ－、八戸市博物館研究紀要第 35 号、pp.5-8 (2022)
2. 安井早紀、木村優弥、川村仁、小松一：青森大学薬学部のリソースを活用した健康に対する社会貢献、青森大学附属総合研究所紀要, 24, No.1, 11-19 (2022)

■清水 保明

Noriyuki Morikawa, Yasuko Kato, Nobuaki Takeshita, and Yasuaki Shimizu, Pharmacological characterization of AS269016, a novel small molecule RANKL signal transduction inhibitor. *European Journal of Pharmacology*, 926, 5 June, 2022, 174941

■上家 勝芳

Nagaoka A., Sakurai M., Kamiie K. and Masumi A. Sorghum (*Sorghum bicolor* (L.) Moench) extract-induced adipogenesis is independent of PPAR γ Ser273 phosphorylation in 3T3-L1 adipocytes Biol.Pharm.Bull. 2022 45 (5) 659-663.

■外角 直樹

Yuki Kishikawa, Yukie Kawahara, Yoshinori Ohnishi, Naoki Sotogaku, Tomoko Koeda, Hiroshi Kawahara, Akinori Nishi: Dysregulation of dopamine neurotransmission in the nucleus accumbens in immobilization-induced hypersensitivity. Front Pharmacol. 2022 Sep 8;13:988178. doi: 10.3389/fphar.2022.988178. eCollection 2022.

【学会発表】

■大越 絵実加

(I) 国内学会発表 (6 件)

1. 多田 智美 1、堀松 星翔 3,4、三浦 裕也 3、大越 絵実加 1,2 (1 青森大薬、2 青森大 SDGs 研セ、3 国際医福大院薬、4 丸大サクラキ薬局) 高校生のキャリア形成を推進する地域薬剤師との交流 2023 年 03 月日本薬学会 143 年会 (札幌)
2. 岸田 皐 1、梅村 直己 2、宮崎 裕美 3、大越 絵実加 1 (1 青森大学薬学部、2 朝日大歯、3 防衛医科大研セ) ナフトキノンの多剤耐性口腔がん細胞に対する免疫原性細胞死の誘導 2023 年 03 月日本薬学会 143 年会 (札幌)
3. 堀松 星翔 1,2、岸田 皐 3、多田 智美 3、小笠原 玲生 3、中村 北斗 3、天内 博康 3、野上 光博 5、人見 啓太郎 5、石井 慶造 6、三浦 裕也 1、大越 絵実加 3,4 (1 国際医福大院薬、2 丸大サクラキ薬局、3 青森大薬、4 青森大 SDGs 研セ、5 東北大院工、6 東北大サイクロトロン RI セ) 地域素材を活用した持続可能な社会の創り手を育む「ものづくり」を目指した取組 2023 年 03 月日本薬学会 143 年会 (札幌)
4. 堀松 星翔 1, 2、三浦 裕也 1、水野 憲一 3、大越 絵実加 3, 4 (1 国際医福大院薬、2 丸大サクラキ薬局、3 青森大薬、4 青森大 SDGs 研セ) 中学生を対象とした「主体的・対話的で深い学び」を促す理科実験プログラムの学習効果と応用 2022 年 09 月日本生薬学会第 68 回年会 (Web 松山大学)
5. 堀松 星翔 1, 2、三浦 裕也 1、水野 憲一 3、大越 絵実加 3, 4 (1 国際医福大院薬、2 丸大サクラキ薬局、3 青森大薬、4 青森大 SDGs 研セ) 地方創生を基盤とする持続可能な社会の創り手を育む ESD 教材の開発 2022 年 08 月第 7 回日本薬学教育学会大会 (Web 北里大学)
6. 多田 智美 1、堀松 星翔 2、水野 憲一 1、大越 絵実加 1, 3 (1 青森大薬、2 丸大サクラキ薬局、3 青森大 SDGs 研セ) 地域薬剤師との 交流による中学生のキャリア発達能力の習得・育成効果の検証 2022 年 08 月第 7 回日本薬学教育学会大会 (Web 北里大学)

(II) 青森県交流会 発表 (1 件)

7. 岸田 皐 1、中村 北斗 1、大越 絵実加 1, 2 (1 青森大薬、2 青森大 SDGs 研セ) 青森県主催「環境活動ネットワーク交流会 2022」2022 年 08 月ウエディングプラザアラスカ

■上家 勝芳

上家勝芳 1、長岡青空 1、櫻井誠 1、益見厚子 1,2 (1 青森大・薬、2 宮城学院女子大・食品栄養) タカキビ抽出液およびアップルポリフェノールが 3T3-L1 脂肪前駆細胞の脂肪細胞分化に与える影響. 第 95 回日本生化学会大会 (名古屋)、2022 年 11 月

【学会活動】

大越絵実加 日本生薬学会 代議員 2018年～

【授賞】

■大越 絵実加

指導学生（岸田皐）日本薬学会 142 年会（名古屋）学生優秀発表賞
（ポスター発表の部）

令和 4 年 4 月 21 日授与 組織委員長 森 裕二



根拠資料

【著作等】

■大越 絵実加

1. 青森県エネルギー情報誌「原子力だより AE」vol.152（2022 Autumn）https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/energy/g-richi/files/AE152_web.pdf
2. 「総研だより」（青森大学附属総合研究所）第 4 巻第 4 号 <https://www.aomori-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/04/389028740c6e880a01901d8ae3397c7e-1.pdf>
3. 「総研だより」（青森大学附属総合研究所）第 4 巻第 3 号 <https://www.aomori-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2019/02/602e0afc5f4ddb5dcfb5df6e85561af8.pdf>

■川村 仁

1. 新訂「学校環境衛生基準」解説（薬事日報社）、2022（共著）
2. 学校環境衛生基準における採光及び照明と輝度対比：公益財団法人日本学校保健会会報、No.356(9)、2022
3. GIGA スクール構想と ICT 教育時代の学校保健（新春座談会）：公益財団法人日本学校保健会会報、No.358(1)、2023
4. 学校環境衛生基準における採光及び証明と輝度対比；日本薬剤師会雑誌、75(3)、51、2023

■清水 保明

清水保明：禁煙すごいぜ！ かわら版青森薬志、第 100 号、2022.7.1.

■大越 絵実加

1. 学術研究助成基金助成金 令和 02-06 年度 基盤研究 C（一般）（代表者：佐藤 昌泰、分担：大越 絵実加）¥4,550,000 「学生エンゲージメントを促す薬学教育の実践」
2. 第 9 回青森大学教育研究プロジェクト 令和 04 年度（代表者：大越 絵実加、分担：堀松 星翔）¥247,000 「北東北の特色ある天然素材を用いた ESD (Education for Sustainable Development) 教材の開発」[教育改革部門]

■福井 雅之

令和 02 - 04 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究 C（一般）（代表者：福井雅之）
栄養成分を用いた副作用の少ない癌細胞増殖抑制法の開発、¥4,160,000

■中本 章貴

学術研究助成補助金 令和 04 - 06 年度 基盤研究 C（一般）¥4,160,000 「動物胚の非対称分裂におけるセロトニンの役割」（代表者：中本 章貴）

各局の活動

青森大学 FD・SD 委員会

青森大学 FD・SD 委員会では、教職員の資質向上を目的として、年間を通して取り組んでいます。今年度は新たに設置されたむつキャンパスのために「むつキャンパス作業部会」を設けました。

また、例年通り全教職員参加の研修会を実施しました。夏季教職員研修会は、「機関別認証評価第3サイクルへの対応」、冬季教職員研修会は、「3キャンパス体制をどう活かすか～青森大学のブランド構築に向けて～」をテーマに実施しました。

さらに、外部 FD 研修会・セミナーへの参加と学内 FD 研修も実施しており、今年度の外部 FD 研修会・セミナーへの派遣は、述べ 25 件実施しました。学内での FD 活動は 11 件実施しました。

学部独自の取り組みとして、社会学部では教職協働の観点から、年度当初の履修指導に教員も参画することを念頭に、事務局教務課による勉強会を実施しました。

情報化推進センター

【青森大学アプリ誕生】

本学では 2022 年 9 月から、青森大学アプリの提供を開始しました。これは、学生はもちろん保護者や教職員等だれでも使えるアプリで、学生の履修・出席管理を行う「ポータルシステム」、掲示板情報を含む大学からのお知らせや学事暦、学生生活ガイドブック等をスマートフォン上で閲覧することができます。また、アプリから各種証明書を申し込むことができ、大学事務局のほか郵送で受け取ることもできます。

学生からは「部活動や地域活動の情報がよく分かるようになった。」や「帰省中に掲示板を確認することができるので便利」などの声が寄せられました。



図書委員会（附属図書館）

【第 26 回 図書館文化講演会】

2022 年 11 月 7 日（月）、記念ホールに於いて第 26 回図書館文化講演会を実施しました。

青森県近代文学館の文学専門主事の方を講師としてお呼びし、「教室で出会った文学」についてご講演いただきました。

講演は 2022 年 7 月から 2022 年 9 月にかけて開催された青森県近代文学館の「特別展 教室で出会った文学」で展示された内容をもとに、国語の教科書に掲載される文学作品の作者のエピソードや青森県との関りについてお話していただきました。

宮沢賢治が青函連絡船を利用していたこと、芥川龍之介は亡くなる 2 か月前に青森に立ち寄り、のちに青森県知事となる故竹内俊吉（1900 年 2 月 5 日 - 1986 年 11 月 8 日）らに請われて講演を行ったことなど、あまり知られていない逸話も紹介され、誰もが知る作家たちと青森県の関りを知り、親近感が生まれ、もう一度作品を読みたいという興味が湧くような講演会でした。

【第 28 回読書感想文コンクール】

毎年実施している読書感想文コンクールの応募作品審査が 2022 年 12 月に行われ、金賞 薬学部 5 年 1 名、銀賞 総合経営学部 2 年 1 名、銅賞 社会学部 1 年、社会学部 2 年、社会学部 4 年の 3 名、奨励賞 社会学部 2 年の 2 名が選出されました。今回は社会情勢を鑑みて授賞式は見送り、個別に賞状と副賞をお渡ししました。

これからも学生の皆さんには読書体験を積み重ねてもらえるよう、図書館も応援していきたいと思っています。

国際交流センター

【A グローバルクラス～世界の食と文化を味わおう～ 第3回 アメリカ式 BBQ S'more を作ろう を実施】

2022年8月21日（日）に令和4年度Aグローバルクラスの第3回プログラム（主催：青森市教育委員会）として、学生による企画・運営で「アメリカ式 BBQ S'more を作ろう」を実施しました。

A グローバルクラスは、子どもたちが外国の文化及び言語と触れることができる機会を通して国際化に対応できるグローバルな人材を育成することを目的に、青森市教育委員会が実施しております。

第3回「アメリカ式 BBQ S'more を作ろう」では「人と繋がる」と「自分と他人を知る」をテーマとし、積極的にコミュニケーションをとることを目的としたアクティビティを企画しました。

アクティビティには事前登録をした小学5・6年生の子どもたち17名と青森市内で指導をしているALTが参加し、異文化交流を体験しました。

青森大学からは総合経営学部2年2名と、社会学部4年1名、社会学部3年1名、2年1名、留学生からは社会学部4年1名、ソフトウェア情報学部1年1名がプログラムの企画から運営、指導、サポートまで担当し、異文化ビンゴや英語での自己紹介、S'more作りを通し異文化の理解を深めることができました。

参加した子どもたちからは「いろいろな国の人とたくさん話すことができ、日本の文化との違いを知ることができた」、「家に帰ったらマレーシア、中国、フィリピンのことをもっと調べたい」、「S'more をまた家でも作ってみたい」などの感想を貰いました。A グローバルクラスの第3回プログラムは、テーマであった「人と繋がる」こと、「自分と他人を知ること」を達成することができました。



【留学生がりんご狩り体験】

2022年11月9日（水）、りんご狩り体験イベントを青森観光りんご園で3年ぶりに開催し、留学生9名・日本語サポーター4名の計13名の学生が参加しました。



参加した留学生は「初めてりんご狩りをします！楽しいです！」「一日1個じゃ足りない！もっと食べたい！」「母国のりんごと違う！」と初めてのりんご狩りを堪能しました。

お世話になった青森観光りんご園の皆様、ありがとうございました。

【クリスマス交流会を開催】

2022年12月21日（水）に、青森キャンパスのレストラン棟1階でクリスマス交流会を3年ぶりに開催し、留学生14名・日本人学生9名・教職員12名の計35名が参加しました。

クリスマス交流会内容は、留学生による各国〇×クイズ・ビンゴ抽選会・1年の振り返り・スペシャルステージの津軽三味線演奏です。

新型コロナウイルス感染症対策のため制限された部分もありましたが、学生同士及び学生と教職員の交流する姿が見られ、2022年を締めくくるイベントにふさわしいものになりました。



日本語教育センター

【日本語教員養成プログラムを開講】

2022年4月16日(土)より、2022年度日本語教員養成プログラムの講義を開講しました。前年度からの受講生は6月から教育実習が始まり、12月には教壇実習に臨みました。2022年度は、学部生では総合経営学部4年生2名と、社会学部4年生1名の3名、科目等履修生は7名の計10名が修了しました。



【青森県日本語指導サポーター養成講座を開講】

2022年5月25日(土)より、青森県日本語指導サポーター養成講座を開講しました。

青森県日本語指導サポーター養成講座は、青森県国際交流協会(2022年10月より「青森県観光国際交流機構」に名称変更)の委託事業として、2019年度から2021年度まで107名のサポーターを養成しました。また、2022年度からは、青森大学の聴講制度を活用した形で継続することになり、新たに9名のサポーターが誕生しました。サポーターの皆さんは、県内各地の日本語教室等で外国人住民に寄り添いながら、日本語学習を支援する活動をしています。



【青森県日本語指導サポータースキルアップ研修】

青森大学では、青森県国際交流協会と連携して、年に2回「日本語指導サポータースキルアップ研修」を実施しています。第1回目は、2022年11月12日(土)、19日(土)の2日間にわたって『これだけは知っておきたい「日本語の文法」』(青森大学日本語教育センター主催)、第2年回目は、2023年1月21日(土)に『発達障害とされる外国につながる子どもたち』(弘前大学多文化リソースルーム主催)をテーマに行いました。日本語指導サポータースキルアップ研修は、日本語指導サポーターに登録された方々を対象に行っており、青森県内外の日本語教育の専門家をお招きし、サポーター活動に必要な知識や技術について、ベテランから初心者までが一緒に学びました。



【青森県日本語パートナー養成講座を開講】

2022年度4月から青森県国際交流協会の委託事業として「青森県日本語パートナー養成講座」を年に2回実施することとなりました。2022年度は、第1回目を泊町にて2022年7月2日(土)、9日(土)、16日(土)の3日、第2回目を青森市にて2022年3月4日(土)、11日(土)、18日(土)の3日実施し、26名が日本語パートナーとして登録しました。青森県日本語パートナー養成講座は、やさしい日本語を使った対話を通して外国人に寄り添う人材を養成するためのものです。登録されたパートナーの方には、今後青森県内で行われる交流型日本語教室などで活躍していきます。



【青森県内の小中高等学校での児童生徒向け日本語支援活動】

日本語教育センターでは、弘前大学教育学部多文化リソースルームと連携し、県内の日本語支援が必要な児童生徒に対しての日本語支援を実施しています。日本語教員養成プログラムの修了生や青森県日本語指導サポーターが、県内各地の小中高等学校で日本語支援員として活躍しています。

青森ねぶた健康研究所

青森ねぶた健康研究所では、免疫増強剤 ARNAX 開発に向けて研究を進めております。2022 年度は「みちのく・ふるさと貢献基金 地域振興助成事業」からの採択を受けました。

また、国立がん研究センターの革新的な医療技術の実用化を目指すベンチャー企業を支援するプログラム「NCC Venture Incubation Program」の支援チームに採択されました。

2022 年 12 月には青森大学内の皆様からのご協力の下、私たちの研究成果を特許出願することができ、大変うれしく思っております。

ARNAX はがんワクチン・感染症ワクチンへの適用を目指しております。高齢者にも安全で副作用のない免疫増強剤の実用化が、高齢化と短命県という課題を抱える青森県の健康長寿に貢献できると考えております。

【2022 年度の TOPICS】

- 2022 年 3 月 17 日 みちのく・ふるさと貢献基金 贈呈式への出席
- 2022 年 4 月 26 日 ImmunoHorizons 論文発表
“Prophylactic Vaccine Targeting TLR3 on Dendritic Cells Ameliorates Eosinophilic Pneumonia in a Mouse SARS-CoV Infection Model”
- 2022 年 5 月 13 日 青森大学オープンカレッジ 講師（瀬谷）
「医療・福祉から見た青森の地域高齢化の諸問題」
- 2022 年 7 月 4 日 ベンチャー支援プログラム
「NCC Venture Incubation Program」支援チームに採択
「ARNAX ワクチンプロジェクト」非炎症の免疫アジュバント・ARNAX の開発
- 2022 年 11 月 8 日 市民公開講座開催 大阪大学 名誉教授 岡部 勝先生
「遺伝子操作動物と受精の仕組み」
- 2022 年 12 月 5 日 特許出願「核酸アジュバント」特願 2022-193945
- 2022 年 12 月 11 日 Cells 論文発表 "Innate-Acquired Linkage in Immunotherapy"

青森大学オープンカレッジ

令和4年度 青森大学オープンカレッジ 市民大学講座

	日程	テーマ	講師	会場	備考
1	4月22日(金)	開講式		青森大学6号棟 622教室	開講式
		心とは～服飾からみえる人生観～	青森大学 名誉教授 江川 静英		
2	5月6日(金)	絵本と子育て ～子どもの健やかな成長に絵本が果たす役割とは～	青森大学 社会学部 教授 秋田 敏博	アウガ5階 ホール	
3	5月13日(金)	医療・福祉から見た青森の地域高齢化の諸問題	青森大学 特任教授 瀬谷 司	アウガ5階 ホール	
4	5月20日(金)	縄文と生きる ～世界遺産認定を信じて～	一般社団法人 三内丸山応援隊代表 一町田 工	青森商工 会議所	
5	5月27日(金)	コンビニというビジネスの「表と裏」	青森大学 名誉教授 赤坂 道俊	青森商工 会議所	
6	6月3日(金)	漢方と鍼灸 ～元気に年齢を重ねましょう～	青森大学 医学部 教授 小松 一	青森商工 会議所	
7	6月10日(金)	最近耳にする“SDGs”って何？ ～「青森大学×SDGs×市民」が拓く青森の未来～	青森大学 総合経営学部 教授 佐々木 豊志	アウガ5階 ホール	
8	6月17日(金)	三内丸山遺跡と新幹線	青森大学 社会学部 教授 櫛引 素夫	青森商工 会議所	
9	6月24日(金)	こぎん刺しの世界 ～国重要文化財指定建築家 前川国男第1作木村産業研究所を守りながら～	弘前こぎん研究所 代表取締役 成田 貞治	アウガ5階 ホール	
10	7月8日(金)	サギ被害を学びかきこい消費者になろう！ ～だまされないために上手な人間関係を～	青森大学 社会学部 教授 船木 昭夫	アウガ5階 ホール	
11	7月15日(金)	ドローンの世界と今後の可能性	大坂組 ドローン事業部長 徳差 毅	アウガ5階 ホール	
12	7月22日(金)	青森山田学園ねぶたの歴史	青森山田学園ねぶた 特別顧問 平井 卓	ワ・ラッセ	
13	7月29日(金)	博物館と地域について～展示を考える～	青森大学 ソフトウェア情報学部 准教授 鹿内 史	青森商工 会議所	
14	8月26日(金)	津軽塗の今	CASAICO 代表 葛西 彩子	アウガ5階 ホール	
15	9月9日(金)	くすりの昔と今	青森大学 薬学部 教授 水野 憲一	アウガ5階 ホール	
16	9月16日(金)	GOMA ワールド ～自分の強みを活かした世界～	アーティスト GOMA	アウガ5階 ホール	小玉有子氏を交 えての公開講座
17	9月30日(金)	「地方創生」の現状と課題	青森大学 社会学部 准教授 石井 重成	青森商工 会議所	
18	10月14日(金)	健康食品は、本当に効くの？ ～健康食品と薬の違いを一緒に学びましょう～	青森大学 薬学部 教授 清水 保明	アウガ5階 ホール	
19	10月28日(金)	オリンピックという舞台 ～2大会出場選手・ナショナルコーチとして～	東京オリンピックボート競技ナショナルコーチ 吉田 理子	アウガ5階 ホール	
20	11月11日(金)	東奥日報と「茶太楼新聞」	東奥日報黒石支局 支局長 外崎 英明	青森大学6号館 記念ホール	修了式 送迎バスあり
		修了式			

青森大学 脳と健康科学研究センター

【スポーツ健康科学部門】

1. 今年度の PET と近赤外線スペクトロスコピー (NIRS) の同時計測による脳血流酸における素代謝カップリングを解析するための予備研究として、NIR を活用した運動負荷中の前頭葉皮質における酸素化を検証しました。研究成果の一部は第 65 回日本脳循環代謝学会学術集会にて報告しました (演題名; 有酸素運動の強度変化に伴う前頭葉皮質における脳血流酸素代謝カップリングの考察)。
2. 令和 4 年度公益財団法人青森学術文化振興財団研究助成事業として「高齢健常者の自己効力感の向上、認知機能の保持を目的とした運動介入」を実施しました。青森市内在住の高齢者を対象とし、参加者の行動特性と運動能力の関連性を明らかにすることを目的に、1) 生活の質に関わる尺度、2) 運動行動変容ステージ、3) 運動自己効力感 (セルフエフィカシー) に関する質問紙調査を行い、有酸素運動能力や生活体力の因子である筋力測定を実施しました。参加者を募集するために青森大学蔡などで研究趣旨の説明会を実施しました。研究成果の概要は青森大学リポジトリに掲載されています (研究論文; 「高齢健常者の自己効力感の向上、認知機能の保持を目的とした運動介入」事業)。得られたデータは、現在計画中でである PET を用いた神経画像解析により性格特性の違いと運動による脳内セロトニン受容体の変化を解析する PET 研究の有用な基礎的データとなりました。
3. European Initiative for Exercise is Medicine (EIEIM) が推進する、身体活動の増加を促す世界的な取り組みである “Hamburg Declaration, Global Alliance for Promotion of Physical Activity” に、青森大学脳と健康科学研究センターとして署名しました。
4. 日本運動療学会の下部組織、Exercise Is Medicine (EIM) Japan の理事会にオブザーバーとして参加し、EIEIM の Chair である Dr. Steinacker を通じた国際交流を予定する旨を報告しました。
5. 国際ボート競技連盟 (World Rowing)、Sports Medicine Commission の委員として、世界選手権大会 (9 月、チェコ) の医事統括者 (World Rowing Doctor) を担当しました。
6. World Rowing、Sports Medicine Commission の委員として、1) coastal rowing 種目における脳震盪に関するガイドライン 1) (WORLD ROWING EVENT CONCUSSION POLICY) 2) トランスジェンダー選手の女子種目参加に関するポリシー (World Rowing Transgender Policy) の策定を検討しました。1) についてはガイドラインの編集を行いました。
7. 青森大学と神奈川工科大学の包括協定の取り組みとして地域貢献を目標とした介護予防活動を実践しました。神奈川県厚木市玉川地区でのフレイル予防運動教室に参加し、ミームスポーツクラブ実践するストレッチングや運動トレーニング実践を見学した後、「楽しく認知症予防: 運動、エクササイズ認知症」というタイトルで講演を行いました。
8. 青森大学と神奈川工科大学の包括協定の取り組みとして、青森大学社会学部澁谷教授、船木教授、神奈川工科大学創造工学部の教授らと合同で青森大学神奈川工科大学連携セミナーを開催しました。「エクササイズ脳機能に関する最新の知見: 認知症予防の観点から」という演題名で健康科学研究センターが取り組む研究テーマに関する講演を行い、「疾病 予防を目的とした運動介入と自己効力感、生活の質の関係性」という演題名で令和 4 年度公益財団法人青森学術文化振興財団が研究助成事業の研究概要を報告しました。
9. Asian Rowing Federation, Chair of Sports Medicine Committee として、アジアローイングジュニア選手権大会 (12 月、タイ) の国際ボート競技連盟 (World Rowing) の役員として、医事統括者を担当しました。また、アジアローイング連盟年次総会に出席し、Chair として 4 年間の活動報告を総括しました。
10. Asian Rowing Federation, Chair of Sports Medicine Committee に再任されました (任期は 2026 年まで)。2026 年に名古屋で開催されるアジア大会の準備などを担当しました。
11. 公益社団法人日本ローイング協会アンチ・ドーピング委員長としてアンチ・ドーピング活動を推進しました。青森大学薬学部川村教授と共にアンチ・ドーピング研修会を担当しました。
12. 帝京大学医療技術学部柔道整復学科の授業にて、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成講座を担当しました。

各部署の活動

13. 青森県ローイング協会強化指定選手を対象とした乳酸測定事業を遂行しました。
14. 運動負荷における生理機能計測を目的として研究機器を活用しました。①血行動態モニタリングシステム（クリアサイトフィンガーカフ）；エドワーズライフサイエンス ②運動負荷装置（Motion Cycle 600Med）；emotion fitness ③血中乳酸値計測機器（ラクテート・プロ）；アークレイ ④間接熱量計（CPET）；Cosmed

【脳神経外科部門】

脳機能研究を中心とした脳神経外科学に関する学会発表や論文発表を多数遂行しました。

【スポーツ脳神経医学部門】

2022年度は、スポーツ脳振盪の他、高齢者頭部外傷や交通外傷に関する総説を発表し、スポーツによる軽症頭部外傷に関する調査・研究を進めました。頭部外傷に関連する2編のガイドライン作成を分担しました。独立行政法人自動車事故対策機構（NASVA）の顧問および委員長や一般社団法人自賠責・共済紛争処理機構の委員などを務めています。神経障害性疼痛の薬物療法については、アジア規模で実施している治験が順調に進み、優れた効果を示すことが明らかになりつつあります。その結果の一部は Neurology に掲載されました。

【リハビリテーション脳神経医学部門】

主に脳卒中後遺症の改善に反復性経頭蓋磁気刺激療法ならびにボツリヌス療法や体外衝撃波などの有効な画像評価などを用いて口頭発表や論文発表を遂行しました。新しい治療機器の臨床研究法における「特定臨床研究」に参加しデータを提出しました。健康体操の作製をおこない、倫理委員会での認可のもとデータ収集を開始しました。

【臨床薬学部門】

1. 「しあわせあおもり」に生きるセミナーは、2021年度に続き2022年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止しました。
2. 薬学部4年生科目「臨床医学概論」は、本年度は8名9コマ新都市病院の先生に講義を担当していただきました。
3. 遺伝学的成果（疾病の遺伝学的研究）正常型プリオンのGPR126シグナル伝達系に対する新たな効果今年度は、プリオンタンパク質やGPR126が神経系の細胞にどのような影響を与えるのかを解析しました。プリオンタンパク質（hPrP）は、GPR126のリガンドとして作用することが報告されてN末端半分であるhPrP2（23-110アミノ酸）と6-His-GST融合タンパク質を大腸菌発現系により調製し、精製したプリオンタンパク質を用いて実験を行った。細胞分化のモデル細胞としてU87グリア細胞腫を用い、GPR126が発現していない細胞とGPR126を発現させた細胞に、精製したhPrP2-6His-GST融合タンパク質を加えて培養後、それぞれの細胞からRNAを抽出した。神経系細胞のマーカー遺伝子の発現をqPCRにより解析し、リガンドとしての効果を検討した。実験の結果、プリオン添加あるいはGPR126の発現により細胞系譜が変化することがわかりました。
4. 薬剤師不足解消に関わる教育検討および啓蒙活動を遂行しました。
5. 2022年度は秋田県大館市の薬剤師体験セミナー、青森県の薬剤師体験セミナーともに対面による開催となりました。高校生科学研究コンテストは、2021年度に続き例年通り発表形式での開催を実施することができました。薬剤師体験セミナー、高校生科学研究コンテストの成果は薬学会および薬学教育学会でのポスター発表を行なっています。本年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「しあわせあおもり」に生きるセミナー、地域住民に対する啓発活動の一環として「大人のための教養教室～Dr.小松の薬膳講座～」は開催を中止しました。

学生課

【青森大学 学生活動支援制度 ～あおりんプロジェクト～】

あおりんプロジェクトは、学生による主体的な学びや活動を推奨するための支援を目的とし、学生により立案された事業を助成する制度です。学内において公募した上で事業内容を選考し、その活動の支援・助成をしています。

2022年は、5団体から申請があり、2022年6月23日(木)にプレゼンテーションが行われました。

採択されたプロジェクトは以下の通りです。

1. We fixed it! English Translation!
2. 「青森大学」ブランドの日本酒づくりプロジェクト
3. #津軽線プロジェクト 2022
4. 青森大学 キヨメ・デー
5. むい撮り倶楽部・むつキャンパス有志合同企画下北探求プロジェクト



採択された団体は、進捗状況を報告しながら活動を進めていきました。2023年3月10日(金)の報告会では、日常生活の困りごとに対する取組や地域を盛り上げるための研究活動、青森大学を知ってもらうための広報活動など、様々な活動報告が行われました。

普段の学生生活では取り組めない活動支援を推進しておりプロジェクト参加学生からは、「活動の継続を考えたいです。これからも注目していただければ嬉しいです。」との声があがりました。今後も、あおりんプロジェクトを進めていきます。

【1人暮らしの学生を対象にお米を頂きました】



2022年度も JA 青森中央会様からコロナ禍での健康維持と経済的不安の解消を図るため1人暮らしの大学生を対象に青森県産のお米を寄贈して頂きました。

2022年度は、東京キャンパスの学生も対象に青森キャンパスでは201人、東京キャンパスでは13人の214人に「まっしぐらお米2kg1袋」と「まっしぐらレトルトパックご飯180g2パック」を頂きました。JA 青森中央会様ありがとうございます。

【大学レストラン日替定食 100円企画】

青森大学後援会(保護者会)では、コロナ禍の影響や物価高で生活が厳しい学生を支援するための企画として、大学レストランの日替定食を「100円」で提供する取組を2022年11月24日(木)から2022年11月30日(水)まで実施しました。

これからも、勉強や部活動に励む学生を支援していきます。



各部活、クラブの主な記録

新体操部

【全日本学生新体操選手権大会の団体戦で優勝】

2022年8月25日(木)～28日(日)、宮城県の白石文化体育活動センターにて第74回全日本学生新体操選手権大会が開催され、青森大学からは団体2チームと個人8名が出場しました。昨年度までは新型コロナウイルス感染症の影響により無観客での開催でしたが、今年度は制限があるものの久しぶりの観客を動員しての大会となりました。団体選手権では2位と1点以上の点差をつけまして21連覇を果たしました。

〈団体成績〉

優勝：青森大学

3位：青森大学 NEO

〈個人総合成績〉

6位、7位、9位、10位、13位、14位、20位

※団体1チームと個人上位6名が10月に開催される全日本新体操選手権大会の出場権を獲得しました。



【全日本男子新体操クラブ選手権大会】

2022年9月23日(金)～25日(日)、岐阜県の岐阜メモリアルセンターの愛ドームにて第7回クラブ選手権大会が開催され、青森大学からは個人選手13名が参加しました。クラブ選手権大会は全日本新体操選手権大会への5枠の出場権をかけた大会であり、青森大学は経営学部2年生と経営学部3年生の2名が出場権を獲得しました。

〈個人総合成績〉

11位、13位、16位、17位、18位、20位、23位、30位、32位、37位、49位、51位、54位

【全日本新体操選手権大会の団体戦で優勝しました】

2022年10月27日(木)～30日(日)、群馬県の高崎アリーナにて第75回全日本新体操選手権大会が開催され、青森大学からは団体1チームと個人8名が出場しました。団体選手権では昨年に引き続き優勝、個人競技は種目別クラブにおいて経営学部3年生が優勝を果たしました。

〈団体成績〉

優勝：青森大学

〈個人総合成績〉

6位、7位、13位、14位、15位、23位、26位、32位



硬式野球部

【硬式野球部が北東北大学野球連盟 1 部秋季リーグ戦で優勝】

青森大学硬式野球部が北東北大学野球連盟 1 部秋季リーグ戦で 2019 年秋季以来 5 季ぶり 37 回目の優勝を果たしました。



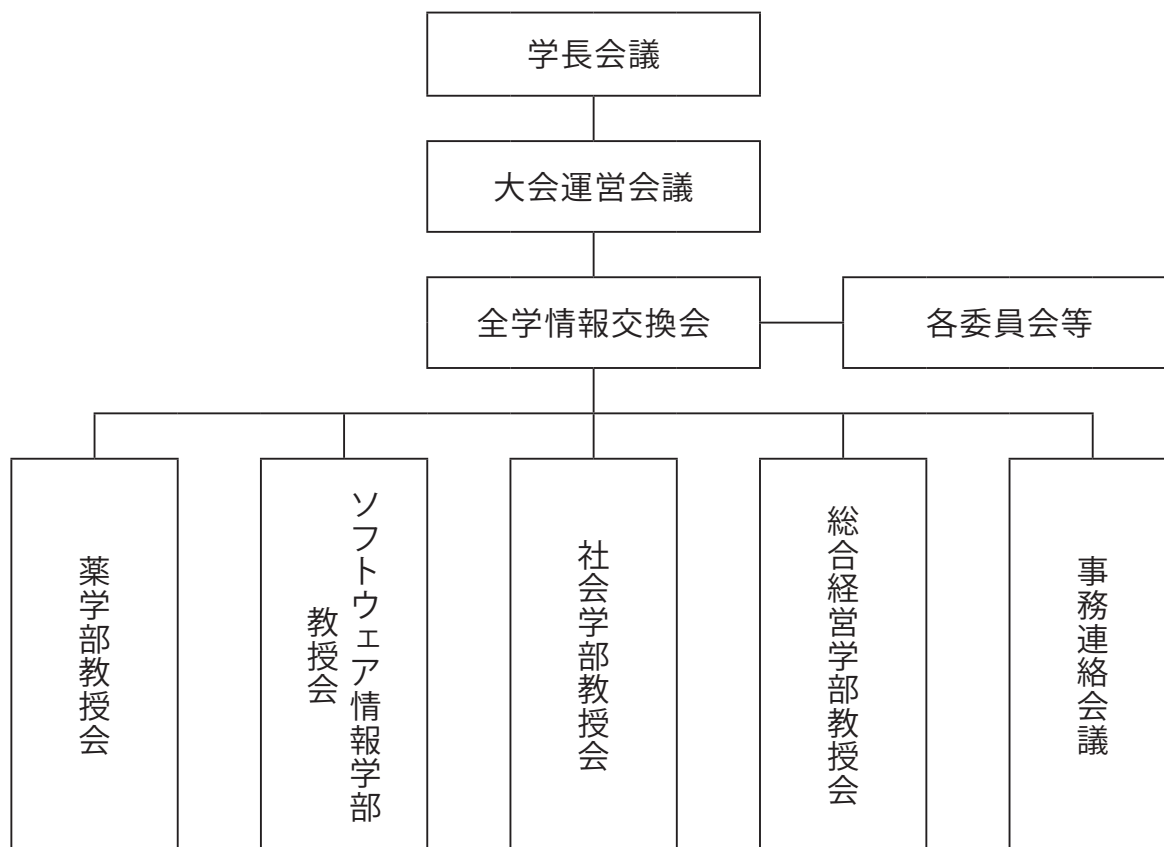
各クラブの主な記録

	大会名	結果
硬式野球部	2022 年東北大学野球 1 部春季リーグ戦	2 位
	北東北大学野球新人戦	準決勝敗退
	令和 4 年度北東北大学秋季リーグ戦	優勝 (5 年ぶり 37 回目) 最優秀選手: 受賞・ベストナイン 4 名
	第 25 回大館トーナメント大会	準優勝
	第 14 回東北地区大学野球代表決定戦	1 回戦敗退
アーチェリー部	青森県夏季アーチェリー選手権大会	4 位
	令和 4 年度国民体育大会アーチェリー競技青森県予選会	2 位・4 位
	第 49 回東北総合体育大会アーチェリー競技会	個人 10 位、団体 4 位
	青森県アーチェリー選手権大会	決勝ラウンド 2 回戦敗退
	令和 4 年度第 1 回青森県室内アーチェリー選手権大会	個人 7 位、団体 4 位
	2022 年度第 39 回東北学生アーチェリーインドア選手権大会	個人: 優勝・7 位・12 位 14 位、団体: 7 位 優勝者はインカレインドアの出場が確定
	第 21 回全日本学生アーチェリー個人選手権大会	65 位
空手部	第 20 回東北学生空手道選手権大会	個人組手: 初戦敗退
	第 21 回新人戦大会	個人組手: 初戦敗退、団体組手: 初戦敗退
硬式テニス部	東北学生テニス春季トーナメント兼全日本テニス選手権大会	シングルス: ベスト 16・ベスト 32
	東北テニス選手権大会	シングルス: 本戦 1R 敗退・本戦 2R 敗退
サッカー部	第 47 回東北地区大学サッカーリーグ	1 部: 10 位 2023 年度、東北地区大学サッカーリーグ 2 部へ降格
	第 37 回デンソーカップチャレンジサッカー茨城大会	プレーオフ大会強化試合: 引き分け
三味線部	津軽三味線津軽民謡全国大会	津軽三味線 B 級動画部門: 4 位 (入賞) 津軽三味線初級動画部門: 受賞 津軽三味線初級部門: 13 位・50 位・53 位・57 位 津軽三味線甲子園部門: 9 位 (入賞)
準硬式野球部	2022 年度東北地区大学準硬式野球春季リーグ戦	3 位
	令和 4 年度東北地区大学準硬式野球秋季リーグ戦	1 部リーグリーグ戦: 4 位
	関口杯第 18 回東北地区大会準硬式野球トーナメント大会	3 位
	第 40 回全日本大学 9 ブロック対抗準硬式野球大会	予選リーグ敗退

各部活、クラブの主な記録

	大会名	結果
新体操部	東日本学生新体操選手権大会	団体1位・3位(NEO)、個人1位・2位・3位
	第74回全日本新体操選手権大会	団体：優勝、個人総合：2位・6位・9位・11位・13位15位・22位・24位・26位・27位
	第75回全日本新体操選手権大会	団体：優勝(2年連続17回目)、個人総合：6位・7位
	第7回全日本男子新体操クラブ選手権大会	個人総合：11位・13位・16位・17位・18位・20位・23位・30位・32位・37位・49位・51位・54位
スキー部	coca-cola CUP 2022	1日目回転 女子：14位、男子：56位 2日目回転 女子：16位、男子：54位
	2022 FIS 秋田八幡平スラローム大会	1日目回転 女子：途中棄権、男子：途中棄権
	第33回全国ローラースキー選手権大会	女子：18位、男子22位
	2022 全国ジュニアサマーノルディックスキー大会	一般女子：1位、一般男子：1位
	第101回全日本スキー選手権大会	スプリント 1.4km フリー競技 女子：77位、男子51位
	第34回白滝北大雪クロスカントリースキー大会	10km クラシカル競技 男子：20位 5km クラシカル競技 女子：16位、男子：21位 5km フリー競技 女子：13位
	第63回岩手県スキー選手権大会	大回転 女子：3位、回転 女子：8位
	第78回国民体育大会冬季大会スキー競技会青森県予選会	大回転 女子：2位、男子：2位
	2023 青森県スキー選手権大会	回転 女子 1日目：4位、2日目：優勝
	第37回全日本学生チャンピオンズスキー大会	クラシカル 5km 女子：22位、クラシカル 10km 男子：23位
	第96回全日本学生スキー選手権大会	大回転 女子：30位、男子：途中棄権、回転 女子：22位 スーパー大回転 女子：優勝、男子：47位
	第38回全日本学生アルペンチャンピオン大会	スーパー大回転 女子：5位、男子：49位
	第101回全日本スキー選手権大会	スーパー大回転 女子：8位
卓球部	令和4年度春季リーグ戦	女子1部リーグ：2位 敢闘賞受賞
	第74回東北学生卓球選手権大会	女子ダブルス：3位、女子シングルス：1位・2位・4位・5位
	全日本大学総合卓球選手権大会	ベスト32
	秋季リーグ・第88回全日本大会大学総合卓球選手権大会(個人の部)予選大会	女子1部：優勝、個人の部：3名通過
	2023年全日本卓球選手権大会 青森予選	混合ダブルス：優勝
	第88回全日本大学総合選手権大会	女子ダブルス：2組1回戦敗退 女子シングルス：1回戦敗退・2回戦敗退・3回戦敗退
	2023年全日本卓球選手権大会	混合ダブルス：敗退
バスケットボール部	第43回北奥羽地区大学春季バスケットボール大会	ベスト8
	秋季北奥羽バスケット大会	優勝
	第23回東北大学バスケットボールリーグ入れ替え戦	敗退
バレーボール部	東北大学バレーボールリーグ男子2部北リーグ	優勝
	東北大学バレーボールリーグ男子1部2部入れ替え戦	1部昇格
	東北地区大学総合体育大会バレーボール競技	2回：敗退
ハンドボール部	第57回令和4年度東北学生ハンドボール選手権大会	新型コロナウイルス感染症で棄権
	第67回東北学生ハンドボール秋季リーグ大会	敗退
ボクシング部	第47回東北地区大学ボクシングトーナメント大会	ライト級：2位
	第27回東北地区ボクシング秋季トーナメント大会	ライト級：2位
陸上競技部	第75回東北学生陸上競技対抗選手権大会	女子やり投げ：4位、ハンマー投げ：2位 男子やり投げ：5位、男子400M：予選6着
	第77回国民体育大会陸上競技青森県選手選考会	男子100M 準決勝：4着、男子円盤投げ決勝：5位 男子ハンマー投げ決勝：2位
	第73回東北地区大学体育大会陸上競技	男子100m 予選：1組4着、男子200m 決勝：4位
	第51回東北学生陸上競技選手権大会	男子100m 予選：7組7着・5組8着・11組3着 男子200m 決勝：1組2着、男子やり投げ決勝：5位 女子やり投げ決勝：2位

【青森大学組織図】



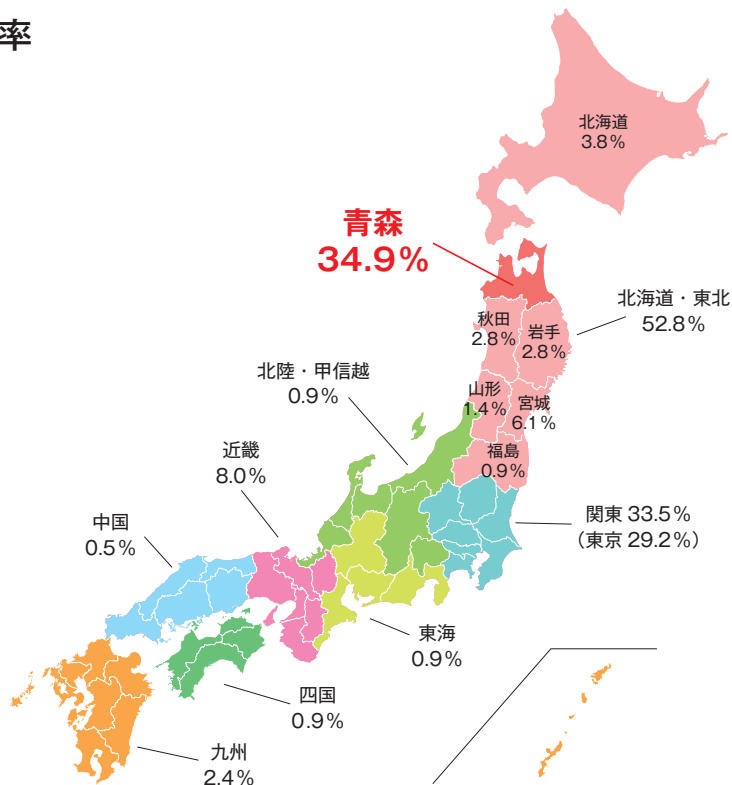
【在籍者数】 (2022年5月1日現在)

学 部	学 科	在籍学生数						計
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
総合経営学部	経営学科	142	112	103	104	—	—	461
社会学部	社会学科	74	71	65	62	—	—	272
ソフトウェア情報学部	ソフトウェア情報学科	62	59	45	54	—	—	220
薬学部	薬学科	41	24	34	59	36	40	234
合 計		319	266	247	279	36	40	1187

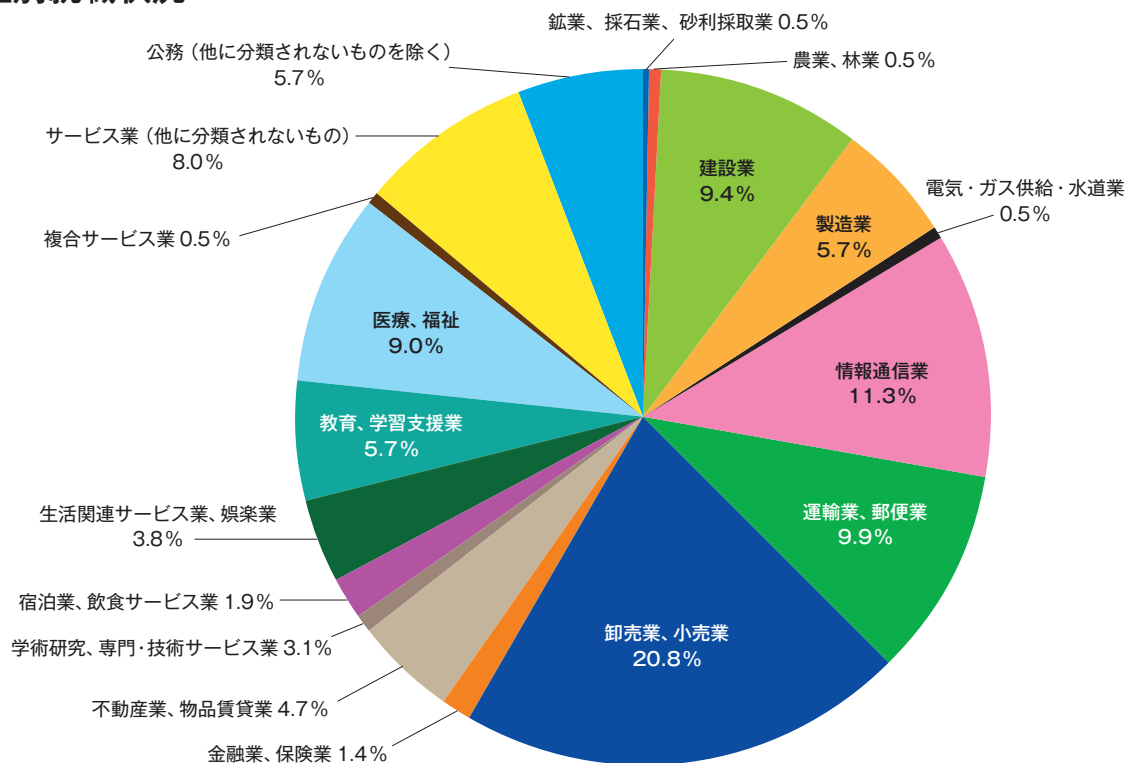
【就職状況】

就職率全体 **97.3%**

■ 地区ごとの就職率

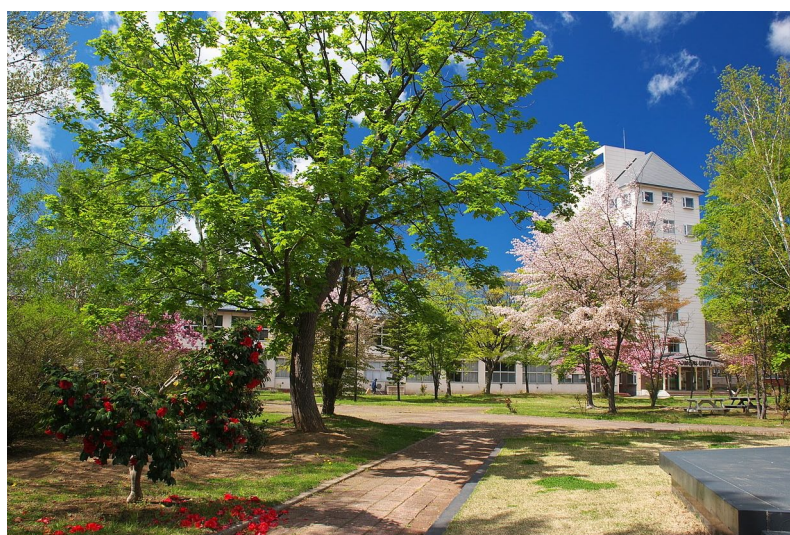


■ 業種別就職状況



【財務情報（事業活動収支計算書）】

		青森山田学園	うち青森大学
教育活動収入	学生生徒等納付金	2,269,775,216	1,426,701,187
	手数料	29,186,922	18,701,922
	寄付金	72,541,670	0
	經常費等補助金	911,977,251	378,291,969
	付随事業収入	81,822,960	12,055,603
	雑収入	287,572,211	99,210,613
	教育活動収入計	3,652,876,230	1,934,961,294
教育活動支出	人件費	2,207,045,382	1,134,739,681
	教育研究経費	1,222,560,688	770,421,356
	管理経費	386,715,276	146,802,824
	徴収不能額等	7,572,966	50,000
	教育活動支出計	3,823,894,312	2,052,013,861
教育活動収支差額		- 171,018,082	- 117,052,567
教育活動外収入	受取利息・配当金	15,832	1,117
	教育活動外収入計	15,832	1,117
教育活動外支出	借入金利息	44,306,828	0
	教育活動外支出計	44,306,828	0
教育活動外収支差額		- 44,290,996	1,117
經常収支差額		- 215,309,078	- 117,051,450
特別収入		193,269,110	0
特別支出		0	0
特別収支差額		193,269,110	0
基本組入前当年度収支差額		- 22,039,968	- 117,051,450



青森大学ルネッサンス基金のご案内

■ 趣意

平素より本学園に対し格別のご支援とご鞭撻を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本学園は、大正7年創立者山田きみが青森市新町に裁縫塾を開いて以来、建学の精神「誠実、勤勉、純潔、明朗」を掲げ、地域の教育機関として幼児教育から高等教育まで、勉学のみならず、人格を陶冶する教育を今日まで一貫して行ってきました。創設以来の卒業生は、各機関合わせて約5万人を数え、これもひとえに皆様方のお力添えの賜物であると感謝しております。これからも新たな学園の歴史を創るため、創設者の建学の精神を教育の柱とし、未来へ向け飛翔を続けます。

一方、昨今の私学を取り巻く環境は少子化を迎え厳しさを増しておりますが、学園教職員一丸となって教育改革、経営の合理化等に最大限努力を重ねています。

つきましては、将来を担う学生に対して、より快適な学びの空間を提供し、より多くの優れた人材を社会に送り出すための支援策として、「青森大学ルネッサンス基金」の募金を募っておりますので、教職員、卒業生、保護者をはじめ、各界の皆様方のご理解、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

なお、本学園へ寄付をして下さった方々には税制上の優遇措置（寄付者が企業等の法人の場合、寄付金全額が損金算入できます。）も認められておりますので、是非ともご活用いただきたいと存じます。

■ 使途

寄付金により、教育研究活動の活性化と充実、教育施設や設備等の整備を行い、そして、学園の経営の充実強化等に資することを目的に、本学の教育研究環境の継続的な充実を図ってまいります。

■ 種別

個人の寄付金 3,000円より

法人の寄付金 1口 50,000円より（なるべく2口以上でお願いします。）

■ 税制上の優遇措置について

ご寄付は、個人の方は所得税法にて、法人・企業の方は法人税法による優遇措置が受けられます。

詳しくはこちら





 青森大学
AOMORI UNIVERSITY

〒030-0943 青森県青森市幸畑2-3-1
TEL.017-738-2001 FAX.017-738-0143
Webサイト <https://www.aomori-u.ac.jp/>